

課内保存用

※配布厳禁※

平成29年度ウチナージュニアスタディー事業報告書

Uchina junior Study 2017 Report



目次

1.概要

(1)ウチナージュニアスタディー事業概要	1
(2)総括・成果	2
(3)組織運営図	3
(4)行程表	4
(5)参加者名簿	5
(6)グループ表	7

2.事業内容

(1)事前学習	8
(2)お迎え	12
(3)学習プログラム	14
(4)エイサー講習	39
(5)アフター	40
(6)見送り	42
(7)ボランティア打合せ	44
(8)世界のウチナーンチュの日(打合せ・PR・本番)	45
(9)おきなわ国際協力・交流フェスティバル2017	48

3.参加者感想

(1)県内参加者・県内青年リーダー	49
(2)海外参加者・海外青年リーダー	66

4.参考資料・その他

(1)メディア関連	82
(2)YouTube	85
(3)インターネットを利用した次世代ネットワークの構築	86
(4)制作物	87
(5)改善点	90
(6)過去の受入実績	91

ウチナージュニアスタディー事業概要

●事業目的

沖縄県の海外移住者子弟を本県に招待し、県内の同世代の青少年と生活を共にしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、海外移住者子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。

●事業内容

(1) 事業実施

事前学習① 平成29年7月1日(土) 9:00~17:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

事前学習② 平成29年7月15日(土) 9:00~16:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

ツアー実施期間：平成29年7月30日(日)~8月5日(土)

報告会：平成29年8月5日(土) 事業最終日

アフターイベント：平成29年8月8日(火)

(2) 参加者 33名

■海外参加者 13~19歳までの海外県系人15名

■県内参加者 沖縄県内の中学・高校生16名

■青年リーダー 沖縄県内 / 海外県系人2名

①海外・国別内訳【9カ国】

アメリカ合衆国 4名・カナダ 2名・アルゼンチン共和国 2名・メキシコ合衆国 1名・ボリビア多民族国 2名・ブラジル連邦共和国 2名・ペルー共和国 1名・大韓民国 1名・フィリピン共和国 1名

②海外・世代別内訳

海外参加者 2世=5名 3世=7名 4世=4名

(3) ツアー同行スタッフ

■沖縄県職員 1名・国際交流員 2名(ペルー・大韓民国 各1名)・

通訳・翻訳嘱託員 1名(アメリカ) 計4名

■担当スタッフ 5名・通訳 3名(英語・スペイン語・ポルトガル語 各1名) 計8名

■その他 エイサー講師 1名・看護師 1名・ボランティア 29名

(4) 学習プログラム

①自然学習

沖縄の自然や動植物に触れるアクティビティーにより、自然の大切さを学ぶ。

②歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を訪れ、沖縄の歴史を学ぶ。

③文化学習

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り、体験する。

④平和学習

沖縄戦の概要を学び、平和について考える。

⑤社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の「今」を考える。

⑥移民・移住学習

沖縄県の移民・移住の歴史や世界のウチナーンチュ大会、世界のウチナーンチュの日について学び、ウチナーンチュとしてのルーツを再確認するとともに、次世代のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

総括・成果

世界のウチナーンチュの絆を深め、未来へ羽ばたく「ウチナージュニアスタディー」

2017年度は、第6回世界のウチナーンチュ大会で制定された「世界のウチナーンチュの日」の制定初年度を迎える特別な年となった。第6回世界のウチナーンチュ大会にも参加した2016年参加者がボランティアとして多く参加し、例年以上に熱気が高いプログラムとなった。

前年度の事業総括も踏まえ、保護者・ホストファミリーに事前学習のオリエンテーションに参加していただき、事業に対する理解や安心感につながったものと考えている。

新たなプログラムとしては、2017年に開館した空手会館で沖縄発祥の空手の学習を取り入れた。空手経験者のカナダ参加者が型を披露したこともあり、評価の高いプログラムとなった。

さらに、ペルー出身の県系3世のアルベルト城間氏を講師として招き、「沖縄」に対する想いを語っていただいた。音楽を交えての身近な体験に基づいた講演に、参加者はとても感銘を受けていた。

また、今年度からプログラム後にもホームステイ期間を設けたことにより、参加者が一堂に会する場を再度設けることができた。参加者全員で事業紹介を制作することで事業を振り返り、絆を一層強化する機会が持てたことや、感想文の提出などの利点があった。

参加者は事業終了後もSNS等で連絡を取り合い、再会を誓い合っており、その姿はまさにウチナーネットワークの拡がり、絆の深まりを感じさせるものである。

10月30日に開催された「世界のウチナーンチュの日制定記念祭」では、県内参加者がエンディングの演出を企画し、次世代を担うウチナーンチュの代表として、自ら考えた未来に向けたメッセージを宣言するとともに、歌手の大城クラウディアさんと肩を組みながら「ミライカナエ」を合唱し、さらに制定記念祭の閉会に合わせて、海外参加者からのビデオメッセージが流れる中、会場は感動で包まれ、式典の開催効果を高める非常に意義深いものとなった。

当事業の特徴として、海外からも含めたOBOGが事業運営のボランティアとして、多く参加していることが挙げられる。事業終了時には参加者のウチナーネットワークへの関心が飛躍的に高まっており、その感動が継続している間に「世界のウチナーンチュの日」と連携するなど活動の場があればさらなる関心の高まりを期待できる。翌年度以降もボランティアや青年リーダーとして事業に関わることができることから、ウチナーネットワークへの関心を継続して持つことができる。当事業は、ウチナーネットワークを担う次世代育成に大きく寄与するものであり、事業効果は高いものとする。

以下、参加者のコメントを一部抜粋

- この一週間を通して、10ヶ国のメンバーと本当の家族、兄弟のように仲良くなりました。
(県内 中3 15歳)
- 出会った仲間達と次世代のウチナーネットワークを構築していきます。
(県内 高3 19歳)
- 研修を通しての出会いに感謝し、大学生になったら世界のウチナーンチュを巡る旅に出たいです。
(県内 高3 19歳)
- このツアーは心のなかに刻まれるほど私の人生の中で素晴らしい思い出の一つになりました。
(メキシコ 15歳)
- このツアーで築きあげた絆は一生たもっていきたいです。そして、将来ウチナーネットワークをまた皆で広めて沖縄で会えることを心から願っています。
(ボリビア 18歳)
- このツアーは、私の人生でかけがえのない大切なものとなった。最初は軽い気持ちで参加したが、修了式の時は誰よりも真剣に皆に感謝する気持ちを持つようになった。
(大韓民国 18歳)
- 私たちは兄弟・姉妹だから「沖縄」という帰る場所があることを一生忘れません。
(フィリピン 18歳)

**主催：沖縄県文化観光スポーツ部
交流推進課**

課長	川上睦子
主査	池間 久美子
国際交流員	パク ウンジ
国際交流員	ファルコニー アレハンドラ
通訳・翻訳	小野 英美

航空・保険・宿泊・バス手配

(株)日本旅行沖縄
旅行部 課長：漢那 元基
MICE営業部：平良 槇妃

サポートスタッフ

2006～2011JST担当
宮古テレビ：太田 卓也

看護師

沖縄介護センター
系数 仁美

■ 総括責任者
(株)サン・エージェンシー
常務取締役：勝連 雅晴

■ 担当者
(株)サン・エージェンシー
営業：比嘉 礼己

運営：沖縄産業計画

エイサー講師

琉球國祭り太鼓
国際部長：佐久田 瞬香

**ボランティアスタッフ
(企画・進行)**

ジュニアスタディツアー
ウチナージュニアスタディ
卒業生メンバー

チューター

- 英語：豊見山 佐妃
- 西語：宮平 千聖
岡本裕子
- 葡語：高良奈津絵

移民・移住学習

(特活) 沖縄NGOセンター
大仲 るみ子・眞壁 由香
佐久田 アンドレス
根路銘 マリア ソレダ

参加者名簿(県内参加者)

	氏名	年齢	性別	学校名	学年
1	稲福 優衣	14	女	浦添市立港川中学校	2
	Yui Inafuku				
2	高野 美月	15	女	浦添市立神森中学校	3
	Mizuki Takano				
3	當山 彩奈	17	女	沖縄県立読谷高等学校	2
	Ayana Toyama				
4	與那嶺 元就	18	男	沖縄県立北中城高等学校	3
	Motonari Yonamine				
5	田中 省冴	16	男	沖縄県立陽明高等学校	1
	Shogo Tanaka				
6	仲村 香南	16	女	昭和薬科大学附属高等学校	1
	Kana Nakamura				
7	生盛 翔大	19	男	沖縄県立首里高等学校	3
	Shota Seimori				
8	大城 瑠奈	19	女	沖縄県立那覇国際高等学校	3
	Runa Oshiro				
9	友利 木綿子	18	女	沖縄県立那覇西高等学校	3
	Yuko Tomori				
10	中川 友希	16	女	沖縄尚学高等学校	1
	Yuki Nakagawa				
11	喜屋武 瑚乃海	17	女	沖縄尚学高等学校	2
	Konomi Kyan				
12	神里 和花	18	女	沖縄県立南部商業高等学校	3
	Nodoka Kamizato				
13	大城 里緒	18	女	沖縄県立向陽高等学校	3
	Rio Oshiro				
14	知念 菜々子	18	女	沖縄県立向陽高等学校	3
	Nanako Chinen				
15	西原 新菜	18	女	沖縄県立豊見城高等学校	3
	Nina Nishihara				
16	松長 加奈絵	18	女	沖縄県立南部農林高等学校	3
	Kanae Matsunaga				
17	與那嶺 加奈絵	21	女	沖縄国際大学	3
	Kanae Yonamine				

参加者名簿(海外参加者)

	氏名	年齢	性別	国名	世代
1	テカチ アマンダ ルイザ	17	女	アメリカ合衆国	4
	TAKOCH AMANDA LUIZA				
2	バットマングリジ ガブリエル	16	男	アメリカ合衆国	3
	BATMANGLIDJ GABRIEL				
3	レッドモンド マイケル ジョセフ 三世	16	男	アメリカ合衆国	2
	REDMOND III MICHAEL JOSEPH				
4	国場 茶梨沙	18	女	アメリカ合衆国	2
	KOKUBA CHALISSA				
5	カイジャク 浦崎 オーシャン	16	女	カナダ	2
	KYJAC-URASAKI OCEAN				
6	岡山 アグスティナ アイリン	18	女	アルゼンチン共和国	3
	OKAYAMA AGUSTINA AILIN				
7	花城 ビクトリア アイレン	19	女	アルゼンチン共和国	3
	HANASHIRO VICTORIA AYLÉN				
8	仲宗根 坂東 マリア フェルナンダ	15	女	メキシコ合衆国	4
	NAKASONE BANDO MARIA FERNANDA				
9	比嘉 千智	18	女	ボリビア多民族国	3
	HIGA CHISATO				
10	長嶺 モニカ 恵	17	女	ボリビア多民族国	3
	NAGAMINE MONICA MEGUMI				
11	山内 マリン	17	女	ブラジル連邦共和国	3
	YAMAUCHI MARYN				
12	知花 アリネ アケミ	18	女	ブラジル連邦共和国	3
	CHIBANA ALINE AKEMI				
13	ムラタ ウエズ アリサ ステファニ	17	女	ペルー共和国	4
	MURATA UEZU ARISA STEFANY				
14	我如古 丈浩	19	男	大韓民国	2
	GANEKO TAKEHIRO				
15	カシピット ジェイミー	17	女	フィリピン共和国	4
	CASIPIT JAMIEE				
16	親川 愛	24	女	カナダ	2
	OYAKAWA AI				

グループ表

★グループリーダー

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	★生盛 翔大	★與那嶺 元就	★友利 木綿子
	Shota Seimori	Motonari Yonamine	Yuko Tomori
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
2	大城 瑠奈	大城 里緒	松長 加奈絵
	Runa Oshiro	Rio Oshiro	Kanae Matsunaga
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
3	田中 省冴	喜屋武 瑚乃海	當山 彩奈
	Shogo Tanaka	Konomi Kyan	Ayana Toyama
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
4	花城 ビクトリア アイレン	稲福 優衣	バットマングリジ ガブリエル
	HANASHIRO/VICTORIA AYLÉN	Yui Inafuku	BATMANGLIDJ GABRIEL
	アルゼンチン-ARGENTINA	沖縄-OKINAWA	アメリカ-USA
5	長嶺 モニカ 恵	カイジャク 浦崎 オーシャン	岡山 アグスティナ アイリン
	NAGAMINE/MONICA MEGUMI	KYJAC-URASAKI OCEAN	OKAYAMA/AGUSTINA AILIN
	ボリビア-BOLIVIA	カナダ-CANADA	アルゼンチン-ARGENTINA
6	ムラタ ウエズ アリサ ステファニ	山内 マリン	比嘉 千智
	MURATA UEZU/ARISA STEFANY	YAMAUCHI MARYN	HIGA CHISATO
	ペルー-PERU	ブラジル-BRAZIL	ボリビア-BOLIVIA
	Dグループ	Eグループ	
1	★知念 菜々子	★西原 新菜	
	Nanako Chinen	Nina Nishihara	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
2	神里 和花	仲村 香南	
	Nodoka Kamizato	Kana Nakamura	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
3	高野 美月	中川 友希	
	Mizuki Takano	Yuki Nakagawa	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
4	テカチ アマンダ ルイザ	レッドモンド マイケル ジョセフ 三世	
	TAKOCH/AMANDA LUIZA	REDMOND III/MICHAEL JOSEPH	
	アメリカ-USA	アメリカ-USA	
5	国場 茶梨沙	仲宗根 坂東 マリア フェルナンダ	
	KOKUBA(HAIRSTON)/CHALISSA(YUKIKO)	NAKASONE BANDO / MARIA FERNANDA	
	アメリカ-USA	メキシコ-MEXICO	
6	知花 アリネ アケミ	我如古 丈浩	
	CHIBANA/ALINE AKEMI	GANEKO TAKEHIRO	
	ブラジル-BRAZIL	韓国-KOREA	
7	カシピット ジェイミー		
	CASIPIT JAMIEE		
	フィリピン-Philippine		

事前学習①(スケジュール)

■ [事前学習①] 7月1日(土)

実施内容：●オリエンテーション ●交流プログラム

09:00 集合・出席確認

第一部(県内参加者・県内参加者の保護者・海外参加者ホームステイ受入先 参加)

09:10 オリエンテーション

- 主催者挨拶
- 事業概要説明
- スタッフ紹介
- ビデオ上映(世界のウチナーンチュ大会ダイジェスト版・開会宣言)
- 県のウチナーネットワーク施策の説明
- 事業プログラム説明
- 参加者心得・注意事項説明
- 保険の説明
- 海外参加者のフライトスケジュールの説明
- 質疑応答
- 県内参加者・県内青年リーダーの自己紹介

11:00 国際交流員等による英語・スペイン語・韓国語の勉強会

12:00 昼食

第二部(ボランティア進行による交流プログラム)

13:00 ボランティアスタッフの自己紹介・体験談

13:15 アイスブレイク(ゲーム)

- イス取りゲーム
- しっぽ取りゲーム
- 鬼探しゲーム

14:30 宿題の説明

- 市町村紹介
- ウェルカムパーティーの余興
- ファミリーストーリー

16:30 余興の内容作成

17:00 事前学習終了

事前学習①

事前学習①

日時：7月1日(土) 9:00～17:00

場所：沖縄県市町村自治会館

オリエンテーション 9:00～10:50

●目的

県内参加者に加え県内参加者の保護者・海外参加者ホームステイ受入先を招き、ウチナージュニアアスタディーの趣旨や事業説明・注意事項の説明を行い、理解をしてもらう。

●実施内容

- ①主催者挨拶(沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課長 川上睦子)
- ②事業概要説明
- ③スタッフ紹介
- ④県のウチナーネットワーク施策の説明
- ⑤プログラム説明・参加者心得説明・注意事項説明
- ⑥保険の説明・フライトスケジュール説明
- ⑦質疑応答
- ⑧県内参加者・県内青年リーダーの自己紹介

●結果

県内参加者の保護者・海外参加者ホームステイ受入先を招き、事業説明・注意事項の説明を行うことで、直接やりとりができ、不安を軽減することができた。また信頼感が生まれ、事業への協力をより得ることができた。

国際交流員等による勉強会 11:00～12:00

●目的

県内参加者はホスト役として海外参加者を受け入れるため、英語・スペイン語・韓国語の簡単な言葉の勉強を行なう。

●実施内容

- ①挨拶の言葉
- ②自己紹介の仕方

ボランティア進行による交流プログラム 13:00～17:00

●目的

県内参加者・ボランティア参加者が楽しいゲームを行ない、仲を深める。

●実施内容

- ①アイスブレイク(ゲーム)
 - イス取りゲーム/しっぽ取りゲーム/鬼探しゲーム
- ②宿題の説明
 - 市町村紹介
 - ウェルカムパーティーの余興
 - ファミリーストーリー
- ③余興の内容作成

●結果

交流プログラムを行ったことで、緊張もほぐれ距離が縮まった。

事前学習②(スケジュール)

■ [事前学習②] 7月15日(土)

実施内容：●NGOセンターのワークショップ ●交流プログラム
●余興練習

09:00 集合・出席確認

第一部(NGOセンターによるワークショップ)

09:05 アイスブレイク

09:20 ファミリーストーリー共有～家族とのつながり、歴史を感じる～

10:00 休憩

10:10 ゲストスピーカーをむかえて(講話)

11:10 Gambateandoを感じよう～グループでミニドラマ作成～

11:45 まとめ

12:00 昼食

第二部(UJS卒業生ボランティア進行による交流プログラム)

13:00 ボランティアスタッフの自己紹介

13:15 アイスブレイク(ゲーム・ダンス)

- じゃんけん列車
- 人間知恵の輪
- YMCA
- マカレナ
- Ai Se Eu Te Pego!
- 5・6・7・8

14:30 フリータイム

- 市町村紹介の作成
- ウェルカムパーティーの余興練習

15:40 グループリーダー発表

16:00 事前学習終了

事前学習②

事前学習②

日時：7月15日(土) 9:00～16:00

場所：てんぶす館 レッスルルーム

講師：大仲るみ子・眞壁由香

ゲストスピーカー：佐久田アンドレス・根路銘マリア ソレダ

沖縄NGOセンターによるワークショップ 9:00～12:00

●目的

NGOセンターが講師となり、沖縄の移民についてワークショップを行ない、県内参加者に過去から現在までの海外のウチナーンチュの動きを知ってもらう。またゲストスピーカーを招き、移民の実体験の話を聞く。

●実施内容

- ①アイスブレイキング
- ②県内参加者のファミリーストーリーを発表
- ③ゲストスピーカーによる講話
- ④移民小唄から学ぶ(劇/ミニドラマ)

●結果

ゲストスピーカーから移民の講話を聞いて、参加者1人1人が移民についての関心が高まった。

ボランティア進行による交流プログラム 13:00～16:00

●目的

ジュニアスタディーツアー・ウチナージュニアスタディーで恒例のダンスの練習やゲームを覚えて、県内参加者がホスト役として海外参加者を迎えるための準備を行なう。

●実施内容

- ①アイスブレイク(ゲーム・ダンス)
 - じゃんけん列車
 - 人間知恵の輪
 - YMCA
 - マカレナ
 - Ai Se Eu Te Pego!
 - 5・6・7・8
- ②ウェルカムパーティーの余興の練習

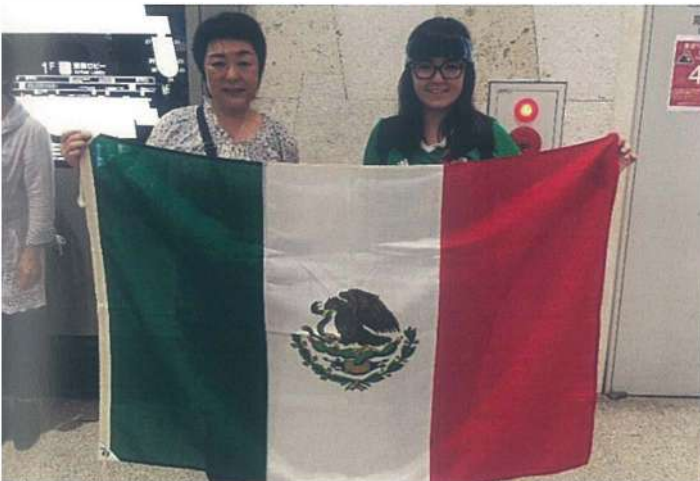
●結果

海外参加者を迎える準備ができた。

ウェルカムパーティーの余興の準備も順調に進み、本番に向けて各自自主練を行ない、調整をする。

お迎え

日時：7月28日(金)・29日(土)
場所：那覇空港



お迎え

日時：7月28日(金)・29日(土)

場所：那覇空港



学習プログラム1日目(スケジュール)

■ [1日目] 7月30日(日)

実施内容： ●開講式～オリエンテーション
●NGOセンターのワークショップ ●交流プログラム
●ウェルカムパーティー

- 09:00 開講式～オリエンテーション(サザンプラザ海邦 4階琉球)
●スタッフ紹介
●参加者自己紹介
●事業概要説明
●プログラム説明
●心得・注意事項説明
●リーダー選出・グループ発表
- 10:20 休憩
- 10:30 自国紹介～第一部～
●アマンダ(アメリカ)
●オーシャン(カナダ)
●ビクトリア・アグスティナ(アルゼンチン)
●ガブリエル(アメリカ)
●マリア(メキシコ)
●千智・恵(ボリビア)
●マイケル(アメリカ)
●丈浩(韓国)
- 12:00 昼食(サザンプラザ海邦 4階首里)
- 13:00 NGOセンターによるワークショップ
●アイスブレイク
●アイデンティティグラデーション①
●写真から見る移民の歴史と現在～フォトランゲージ～
●フォトランゲージ共有(グループ発表)
●ふりかえり
- 15:45 部屋割り発表
- 15:55 荷物を部屋に移動～途中休憩～
- 16:30 UJS卒業生ボランティア進行による交流プログラム
(サザンプラザ海邦 2階サンプラホール)
●じゃんけん列車(YMCA)
●人間知恵の輪
●新聞紙乗りゲーム
●マカレナ
●Ai Se Eu Te Pego!
●5・6・7・8
- 18:20 ウェルカムパーティー会場へ移動
- 18:45 ウェルカムパーティー開始(サザンプラザ海邦 4階大ホール)
- 20:20 ウェルカムパーティー終了
- 21:00 スタッフミーティング

学習プログラム1日目

オリエンテーション 9:00~12:00

●目的

県内参加者・海外参加者が初めて顔を合わせる。一週間安全で楽しく学びの多いツアーとするためウチナージュニアスタディーの趣旨・概要を説明する。

海外参加者に自国紹介をしてもらい、参加者全員に県人会の動きや他国の文化・風習のことを知ってもらう。

●実施内容

- ①スタッフ紹介
- ②参加者自己紹介
- ③事業概要説明
- ④プログラム説明
- ⑤心得・注意事項説明
- ⑥リーダー選出・グループ発表
- ⑦自国紹介～第一部～

●結果

県内参加者は海外に興味を持ち、たくさん海外参加者に積極的に質問をする姿が見受けられた。海外参加者のことを詳しく知りたいという姿勢が見られた。

●参加者の感想

「それぞれの国のプレゼンを聞いて、他国にももっと興味を持ったりすることができた。」

県内参加者:女子

「全てが初めてのことで緊張していた。皆と仲良くなりたいという気持ちはいっぱいだったが、話す言語が違うので積極的に声をかけるのが難しかった。」

海外参加者:男子

沖縄NGOセンターによるワークショップ 13:00~15:35

講師：大仲るみ子・眞壁由香・佐久田アンドレス・根路銘マリア ソレダ

●目的

アイデンティティーについて考える。

自分のアイデンティティーと他の参加者のアイデンティティーの違いを体感する。

●実施内容

- ①アイスブレイク
- ②アイデンティティーグラデーション①
- ③写真から見る移民の歴史と現在～フォトランゲージ～
- ④フォトランゲージ共有(グループ発表)
- ⑤ふりかえり

●結果

参加者同士のアイデンティティーを互いに共有することによって、自分の今の「ウチナーンチュ」や「沖縄」に対する気持ちが理解できた。

●参加者の感想

「自分のアイデンティティーとは何かと改めて考えると、単純に沖縄なのか疑問を持った。この研修中に答えが見つけられるようにしたい。」

県内参加者:女子

「異国へ移民した私たちの先祖の困難さを学べた良い機会だった。」

海外参加者：女子

学習プログラム1日目

交流プログラム 16:30~18:10

●目的

卒業生ボランティアが進行役となり、グループ対抗ゲームを行うことにより、これから1週間プログラムをより楽しくできるようにコミュニケーションの向上を目指す。

●実施内容

- ①じゃんけん列車(YMCA)
- ②人間知恵の輪
- ③新聞紙乗りゲーム
- ④マカレナ
- ⑤Ai Se Eu Te Pego!
- ⑥5・6・7・8

●結果

グループ対抗ゲームの人間知恵の輪や新聞紙乗りゲームによって参加者同士のコミュニケーションを図り、チームワークが深まった。

参加者は交流プログラムを通して、緊張がほぐれ楽しんでいる姿が見受けられた。

●参加者の感想

「みんなで人間知恵の輪したり、新聞紙乗りゲームしたりして、一気にお互いの距離が縮まった気がした。」

県内参加者:女子

「みんな多彩なタレントや個性を持っているのを見て感じた。このプログラムで出会ったすべての絆を長らく続けたいと思った。」

海外参加者:男子

ウェルカムパーティー 18:45~20:20

●目的

①海外参加者と県内参加者同士が言葉や文化の違いにふれ、本事業を有意義なものにするために行う。

②参加者個人の特技を生かし、余興を披露してもらい、参加型形式とする。

同世代が同世代をもてなす交流をする。ジュニアスタディー卒業生に参加協力を呼び掛け、プログラムを作成。進行も卒業生が行う事により、親近感あふれアットホームな場となりウチナーネットワーク構築の早道とする。

●実施内容

司会進行は16期卒業生ボランティア

- ①歓迎挨拶
- ②乾杯の音頭
- ③県内参加者による余興(海外参加者を迎える)
- ④沖縄クイズ
- ⑤カチャーシー
- ⑥集合写真撮影

●結果

余興は海外参加者に喜ばれ、大いに盛り上がった。

また県内参加者が事前学習に作成した沖縄クイズ、県内参加者と海外参加者が2人1組になり、回答するシーンも、徐々に心が打ち解けあっているように見えた。

●感想

「琉舞の“安里屋ユンタ”がとても気に入りました。三線も見ていてとても楽しかった。一番のお気に入りは、ダイナミック琉球でした。」

海外参加者:男子

ウェルカムパーティー式次第

日時：平成29年7月30日（日）18:45～20:20
場所：サザンプラザ海邦 大ホール

18:45	開会	司会：ウチナージュニアスタディー卒業生 中村 優太(16期) 赤嶺 未夢(16期)
18:45	歓迎挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 交流推進課課長 川上 睦子
18:48	乾杯の音頭 食事・懇談	沖縄パンアメリカン連合会 会長 大山 盛稔
19:20	余興(開始)	
19:20	空手・制服紹介	新菜・友希・瑚乃海・翔大・里緒・菜々子・
19:30	三線	彩奈・元就
19:35	琉舞	木綿子・和花・松長加奈絵
19:40	ダイナミック琉球	優衣・美月・與那嶺加奈絵
19:50	沖縄クイズ	参加者全員
20:00	カチャーシー	参加者全員
20:10	集合写真	参加者全員・ボランティア
20:20	閉会	

学習プログラム2日目(スケジュール)

■ [2日目] 7月31日(月)

実施内容： ●表敬訪問 ●万国津梁館見学 ●美ら海水族館見学
●ビーチアクティビティ

- 07:00 朝食
- 08:15 ホテル出発
- 08:30 県庁到着
- 08:45 表敬式典
 - 歓迎セレモニー
 - 集合写真撮影
- 09:30 県庁出発
- 11:00 万国津梁館到着
 - サミットホール見学
 - トイレ休憩
- 11:30 万国津梁館出発
※昼食はバス内で弁当
- 12:15 海洋博公園到着
- 12:30 海の講習
水族館のバックヤード見学
- 13:10 美ら海水族館見学
- 14:30 イルカショー見学
- 15:30 ビーチアクティビティ
- 17:00 海洋博公園出発
- 18:00 つつじエコパーク到着
- 18:30 夕食(つつじエコパーク内レストラン)
- 19:30 エイサー練習
- 20:40 自国紹介～第二部～
 - マリン(ブラジル)
 - アリサ(ペルー)
 - ジェイミー(フィリピン)
 - 茶梨沙(アメリカ)
 - 愛(カナダ)
- 22:00 スタッフミーティング

学習プログラム2日目

歓迎セレモニー 8:45～9:30

場所： 沖縄県庁

●目的

沖縄県の行政の中核である県庁を表敬し、参加者に各国の代表という意識を持たせる。例年、各マスコミから取材があり、県民に広く本事業の開催を周知及びPRを図る。

●結果

「世界の同世代のウチナーンチュと繋がりを持つことにより、自分の住む国とオキナワを結ぶことができる懸け橋になれたらいいと思っています。」(ポリビア：比嘉千智)、「グローバル化が進む社会で、ウチナーンチュ同士の繋がりを強め、ウチナーネットワークを受け継いでいけるようにこれから1週間よく学び、よく遊び、頑張っていきましょう。」(沖縄県：大城里緒)と誓った。

沖縄県文化観光スポーツ部の嘉手苺部長は「プログラムを通して様々な気づきや学びを得ていただき、一人一人が将来のウチナーネットワークの担い手として成長し、沖縄と世界の架け橋になれることを期待しております。」と激励の言葉を述べた。

海外参加者から県職員へお土産を手渡すシーンも見受けられた。

●参加者の感想

「県内参加者代表の里緒・海外参加者代表の千智が素晴らしいスピーチをしていた。県代表として、これからの1週間多くのことを学んでいこうと思った。」

県内参加者:女子

「テレビで放送されていて、ウチナージュニアスタディーがどれだけの意味のあるものかを沖縄県民に示していたと思う。私たちがそれぞれ母国と共に紹介してくれて、とても心が温まった。私たち海外参加者に対して尊敬と心を開いてくれているように感じました。」

海外参加者:女子

万国津梁館見学 11:00～11:30

●目的

2000年7月に「九州・沖縄サミット」の首脳会合会場として使用された万国津梁館サミットホールを見学し、写真を見て、当時のサミットについて考える。

●実施内容

- ①サミットの警備体制を説明
- ②万国津梁館サミットホールを見学
- ③当時の写真を見学
- ④集合写真撮影

●結果

沖縄で各国の首相や大統領が集まって、首脳会議が行われたということを知った。自国の首相や大統領が首脳会議に参加していたことを知って喜んで海外参加者もいた。

●参加者の感想

「沖縄でサミットがあったことは学校で習ったことがあったけど、実際にサミットが行なわれた場所を見学することができて沖縄と世界のつながりを再確認することができて良かった。私も日々努力をして、世界と沖縄の懸け橋になる存在になりたい。」

県内参加者:女子

学習プログラム2日目

海の講習	12:30～13:00
美ら海水族館見学	13:10～14:10
イルカショー	14:30～15:00

●目的

沖縄の海の生物などを学んだ後に世界最大級のアクリルガラスで作られたパノラマウィンドウを通して、沖縄の海の輝きや神秘、その美しさを体感し沖縄の海という自然遺産の大切さを学ぶ。

●実施内容

- ①海の講習(美ら海財団職員による自然学校)
- ②美ら海水族館見学
- ③オキちゃんのイルカショー

●結果

普段一般の方が立ち入りできない水族館の裏側で自然学習を行ない、水族館では実際に海の生き物に触れたり、見たりして参加者は楽しみながら学んでいた。

●参加者の感想

「バックヤードでの水族館の説明は、とても勉強になった。」
県内参加者:女子

「沖縄はサンゴの環境の豊かさや魚たちの環境を守っているのだと感じました。今回の見学では海洋環境のことだけでなく、これからの海洋環境をどう守っていくのか学びました。」
海外参加者:女子

ビーチアクティビティ 15:30～

●目的

沖縄の海を体験する。またビーチアクティビティを通し、参加者同士のコミュニケーションを図る。

●結果

県内参加者が海外参加者をリードし、コミュニケーションをとって、さらに仲良くなっているシーンも見受けられた。また、海外参加者の中には初めて海に入る参加者や「沖縄の海が綺麗」と興奮している参加者もあり、沖縄の海の実感することができた。

●参加者の感想

「海外参加者たちとたくさん喋り、たくさん写真が撮れて嬉しかった。このビーチアクティビティで絆が深まったと思います。」

県内参加者:女子

「参加者たちと仲良くなるキッカケになった。海で遊べる時間がとても短く感じた。」

海外参加者:男子

「今まで見てきた海で、沖縄の海が一番綺麗だった。海の色や砂浜が綺麗でゴミ一つなかった」
海外参加者:女子

自国紹介～第二部～ 20:40～

●実施内容

海外参加者による自国紹介(1日目に発表できなかった参加者が発表)

●結果

2日目ということもあり発表者に対し、質問数がかなり増え、お互いのことを知りたいという気持ちが強くなった。

歓迎セレモニー式次第

日時：平成29年7月31日（月）8:45～9:30
場所：沖縄県庁1階 県民ホール
司会：池間 久美子

8:45	開会	司会
8:47	参加者紹介	司会
8:57	歓迎の挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部長 嘉手苺 孝夫
9:02	参加者代表挨拶	海外参加者代表 比嘉 千智(ポリビア多民族国) 県内参加者代表 大城 里緒(向陽高等学校)
9:12	閉会	司会
	～中庭に移動～	
9:15	記念撮影	

学習プログラム3日目(スケジュール)

■ [3日目] 8月1日(火)

実施内容：●川トレッキング ●BBQ ●交流プログラム
●キャンプファイヤー

- 08:00 朝食
- 09:00 東の沢トレッキング
- 12:00 昼食(つつじエコパーク内レストラン)
- 13:00 フリータイム・洗濯
- 15:30 自国紹介～第三部～
●アケミ(ブラジル)
●木綿子・瑚乃海・友希・和花・新菜・香南(沖縄)
- 16:45 エイサー練習
- 18:30 BBQ
- 19:10 BBQ片付け
- 19:30 UJS卒業生ボランティア進行による交流プログラム
グループ対抗ゲーム
●炭酸早飲み
●あめ玉探し
●モノマネあてゲーム
●絵の伝言ゲーム
●リアクションゲーム
●腕相撲対決
- 21:30 キャンプファイヤー～友情の火(誓い)～
点火後、参加者全員でダンス
●YMCA
●マカレナ
●Ai Se Eu Te Pego!
●5・6・7・8
- 23:00 スタッフミーティング

学習プログラム3日目

東の沢トレッキング 9:00～11:00

●目的

大自然の中を専門ガイドによる説明受けながら川トレッキングを体験し、自然の見方や楽しみ方を学ぶ。また参加者同士で手を取り合って互いに助け合い、チームワーク・絆を深めるプログラム。

●実施内容

やんばるの東村で大自然を感じながら川トレッキングを行なう。

●結果

参加者たちは普段学べない大自然の楽しさを学んだ。

コミュニケーションを取り合い、手を取り合ってトレッキングを楽しんだ。

●参加者の感想

「とても大変な道がたくさんあったが、みんなで協力して、なんとかゴールすることができた。

そして、参加者同士が協力し合い仲が深まったと思う。」

県内参加者:男子

「リバートレッキングは初めての経験で、泳ぎ方がわからないので不安でしたが、周りの参加者が助けてくれました。怖かったが参加者の皆がすごく支えになり、とても楽しめた。」

海外参加者:女子

自国紹介～第三部～ 15:30～16:30

●実施内容

海外参加者・県内参加者による自国紹介(1日目・2日目に発表できなかった参加者が発表)

●結果

県内参加者が自国紹介を行なった際に、海外参加者はとても興味津々だった。

第三部に分かれて自国紹介を行なったが、県内参加者は世界に飛び出したいという気持ちが高まり、海外参加者はもっと沖縄について学びたいという気持ちが高まった。

学習プログラム3日目

交流プログラム 19:30~21:30

●目的

卒業生ボランティアが司会・進行役となり、グループ対抗ゲームを行う。
交流プログラムの中で1番盛り上がる場面となり、参加者同士がさらに絆を深めるプログラム。

●実施内容

- ①炭酸早飲み
- ②あめ玉探し
- ③モノマネあてゲーム
- ④絵の伝言ゲーム
- ⑤リアクションゲーム
- ⑥腕相撲対決

●結果

グループ対抗ゲームということもあり、クイズ形式ゲームで正解すると参加者全員が大喜びするシーンが何回も見受けられた。
言葉は通じなくても、全員で一緒に喜ぶという意味疎通も生まれた場面だった。

●参加者の感想

「様々なゲームを通してチームが一致団結することができた。役割りをふることでみんなが協力、参加しやすい良いチームになった!!チームの成績は残念だったが、絆は一位だったと思う。」
県内参加者:男子
「ゲームに参加して、みんなを応援したり本当に楽しかった。交流プログラムでみんなを一つにまとめてくれたと思います。」
海外参加者:女子

キャンプファイヤー 21:30~22:30

●目的

参加者全員が焚火を囲み、国境を乗り越え、一生の友情を誓い合う。
会場全体が一つとなり、一体感が生まれるプログラム。

●実施内容

女神(卒業生ボランティア)が各グループリーダーに友情の火を渡し点火。
友情の火を点火した後に参加者全員でダンス。
ダンス:5・6・7・8/マカレナ/Ai Se Eu Te Pego!

●結果

交流プログラム・キャンプファイヤーを行なった参加者たちは、国境の壁を乗り越え、絆がさらに一層深まり、一生の友情を誓い合った。
さらにダンスは大いに盛り上がり友情の火が消えるまで踊り続けた。

●参加者の感想

「皆でずっとダンスしてたけど全く飽きなかったし、むしろとても楽しくて事前学習の時と雰囲気も違いました。今までやったキャンプファイヤーの中で一番楽しかったです。ずっと皆と一緒にいいなとおもいました。最高の一日でした。」
県内参加者:女子
「楽しいキャンプファイヤーだった。ボランティア(過去参加者)との深い絆や重要性、またウチナンチュの心をもっと世界中に広めて、その気持ちを強く持つことが大切だと思いました。」
海外参加者:女子

学習プログラム4日目(スケジュール)

■ [4日目] 8月2日(水)

実施内容： ● 平和祈念資料館見学 ● 平和の礎見学
● ひめゆり平和祈念資料館見学 ● 空手会館見学

- 07:00 朝食
- 08:00 つつじエコパーク出発
- 09:55 平和祈念資料館到着
- 10:00 平和祈念資料館見学
- 11:20 平和の礎見学
- 11:50 昼食(優美堂)
- 12:30 ひめゆり平和祈念資料館見学
 - アニメ「ひめゆり」を観賞
 - 館内見学
- 13:45 平和構築ワークショップ
 - 「わたしの気持ちシート」
 - 「平和」をつくるための9つの方法
- 15:50 ひめゆり平和祈念資料館出発
- 16:20 空手会館到着
- 16:30 空手会館見学
 - 空手の映像を観賞
 - 展示室の見学
 - 道場施設の見学
 - 特別道場(守禮之館)での集合写真撮影
- 17:30 空手会館出発
- 17:50 ホテル到着
- 18:20 夕食(サザンプラザ海邦 4階首里)
- 19:30 エイサー練習(サザンプラザ海邦 2階サンプラホール)
- 22:00 スタッフミーティング

学習プログラム4日目

平和祈念資料館・平和の礎見学 10:00～11:40

●目的

資料館で沖縄の戦争の映像や展示資料を見学し沖縄戦だけでなく、当時の社会背景や歴史を学ぶ。平和の礎では事前に海外参加者から頂いた刻銘調査書をもとに先祖の刻銘を参加者全員で探し、写し取り、海外に持ち帰ってもらう。
資料館・平和の礎を見学することで、平和の尊さを再確認する。

●実施内容

- ①沖縄の戦争の映像を観賞
- ②戦争に関する展示資料を見学
- ③平和の礎を見学(海外参加者の先祖の刻銘をフロッタージュ)

●結果

県内参加者は小さい頃に何回か訪れているであろう資料館も海外参加者とともにまわることにより、また違う感情で見ることができ、戦争の歴史について新たな発見ができた。
海外参加者は展示資料を見て読むことによって、過去にルーツである沖縄で起きた実際の戦争の悲惨さが理解できた。
平和の礎では県民・日本兵・アメリカ兵といった方たちの刻銘を見て、多くの方が沖縄戦によって亡くなったという実感を持った。

●参加者の感想

「何回も平和祈念資料館に足を運んだことはありますが、海外参加者の方と一緒にいくと、改めて平和について考えさせられました。また、今までと違った観点から沖縄戦を見つめ直すことができたと思います。」

県内参加者:女子

「海外参加者が祖先を探している姿を見て、平和の礎はものすごく重要な役割をしていると感じた。外国に住んでいながらも、祖先が沖縄の平和の礎に刻まれていることは、私たちだけでなく、外国人にとっても衝撃なものだと感じた。平和に近づくために大切なものだった。」

県内参加者:女子

「沖縄戦の背景を知ることができて良かった。沖縄とアメリカがどのようにして戦争をすることになったのか今まであんまり知らなかった。資料館で伝えられていたことと、アメリカで習う沖縄戦の話は全く違うなと感じた。」

海外参加者:女子

学習プログラム4日目

ひめゆり平和祈念資料館見学 12:30～15:50

講師：学芸課長代理 古賀徳子

●目的

平和祈念資料館で学んだ沖縄戦とは違う視点で、ひめゆり学徒隊を中心に戦争体験を知り、沖縄戦の悲惨さや平和の尊さを学ぶ。

●実施内容

- ①DVDのアニメ「ひめゆり」を観賞。
- ②ひめゆりに関する戦争の展示資料を見学。
- ③ひめゆり平和祈念資料館の古賀徳子氏による平和構築ワークショップ

●結果

平和構築ワークショップをすることによって「平和」に対して自分の考え方を述べ、様々な国の参加者の考え方を聞くことにより視点が変わった。

●参加者の感想

「アニメはとてもわかりやすい内容だった。ワークショップでは歴史のことや現在の平和について自分と向き合って考えさせられた。グループディスカッションではとても良い意見交換ができた。」

海外参加者:女子

空手会館見学 16:20～17:30

●目的

今年3月に開館したばかりの空手会館の展示室で空手の歴史を学び、道場施設では実際に道場や鍛錬室を見学し、当時から現在までの空手について学ぶ。

●実施内容

- ①空手の映像を観賞
- ②展示室の見学
- ③道場施設の見学

●結果

展示室では映像や展示物を見て空手の歴史を学び、実際に体験コーナーで昔の鍛錬の仕方を体験した。

道場施設の中の道場ではカナダからの海外参加者が参加者全員の前で力強い型を披露し、県内参加者・海外参加者から大きな拍手と歓声が上がった。

●参加者の感想

「授業でも空手はやっていたけど、こんなに深い意味があって、空手の素晴らしさを再確認することができた。空手は沖縄が世界に誇れるものだから、世界に出ていく前にしっかり身につけておきたい。」

県内参加者:女子

「空手が沖縄の発祥地ということを知らなかった。また一つウチナーンチュとしての誇りが増えた。自分たちウチナーンチュの歴史を調べるのはとても楽しい。」

海外参加者:女子

学習プログラム5日目(スケジュール)

■ [5日目] 8月3日(木)

実施内容： ● 沖縄県立博物館見学 ● 首里城公園見学
● 伝統工芸体験 ● マチグワー散策

- 07:00 朝食
- 08:30 ホテル出発
- 09:00 沖縄県立博物館見学
- 10:15 沖縄県立博物館出発
- 10:40 首里城公園見学
 - 守礼門で集合写真撮影
 - 首里城前で集合写真撮影
 - 首里城内見学
- 11:40 金城町石畳へ移動
- 12:20 昼食(バンボツシュ)
- 13:30 那覇市伝統工芸館へ移動
- 13:40 工芸館体験
 - 首里織体験
 - 紅型体験
 - 琉球漆器体験
- 15:20 UJS卒業生ボランティア進行によるマチグワー散策
- 17:20 マチグワー散策終了
- 17:45 ホテル到着
- 18:15 夕食(サザンプラザ海邦 4階首里)
- 19:30 エイサー練習(サザンプラザ海邦 2階サンプルホール)
- 22:00 スタッフミーティング

学習プログラム5日目

博物館見学 9:00～10:15

ガイド：沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員 久部良和子

●目的

常設施設では原始時代から琉球王国、そして今の沖縄の自然の解説や琉球王国時代の伝統工芸品などの解説を聞き、今までの沖縄の歴史・文化の集大成を学ぶ。
縄文人からウチナーンチュへの文化・歴史について学ぶ。

●実施内容

- ①昔から現代までの空手の歴史
- ②琉球王国時代のウチナーンチュの生活
- ③万国津梁の鐘について
- ④参加者各自で常設施設内を見学

●結果

日本人とウチナーンチュの歴史・文化の違いを理解した。
琉球王国時代から現代まで保管されている「万国津梁の鐘」の説明を聞き、この事業が「万国津梁」の第一歩であることを知った。

●参加者の感想

「私たちの昔の暮らしを見ることで、より海外への移住した人たちの凄さを理解できた。万国津梁の鐘など、さまざまな国際交流の1歩目となることがわかった。」

県内参加者:女子

「沖縄が貿易の中継地点として繁栄していた時代や祖国の歴史を学ぶことが面白かった。」

海外参加者:男子

首里城見学 10:40～11:40

●目的

専門ガイドの解説のもと、世界遺産の「首里城」を見学し、沖縄県がかつて琉球王国だった時代の歴史や文化遺産を学ぶ。

●実施内容

- ①守礼門で集合写真撮影
- ②首里城前で集合写真撮影
- ③首里城内見学

●結果

琉球王国時代の歴史や文化について学んだ。

●参加者の感想

「首里城の造りは、琉球独特のものや中国から伝わったものもあり、沖縄の特徴であるチャンプルー文化を体験している建物だと思いました。」

県内参加者:女子

「昔からある家や建物を見て、昔の人たちはどのような生活をしていたのかイメージすることができた。」

海外参加者:女子

学習プログラム5日目

伝統工芸体験 13:30～15:10

●目的

琉球王国時代から作られている首里織・琉球漆器・紅型の工芸品を実際に参加者が自分で作ることによって、歴史を肌で感じてもらう。
また作成した工芸品は思い出・お土産として持ち帰ってもらう。

●実施内容

- ①首里織
- ②琉球漆器
- ③紅型

3つの工芸品に分かれて工芸体験をする。

●結果

実際に参加者自身で作ることによって、工芸の楽しさを学んだ。
また、個人個人で色などが異なるため、自分だけのオリジナルの工芸品が作れ、とても喜んでいった。

●参加者の感想

「伝統工芸品を作る機会はなかなかないので、実際に作ってみて楽しかった。職人さんのおかげで沖縄の伝統が守られているのだと感じました。」

県内参加者:女子

「母へのプレゼントが作れてすごく嬉しかった。伝統工芸体験ができて本当に良かった。」

海外参加者:女子

マチグワー散策 15:20～17:20

●目的

卒業生ボランティアがガイド役になり、参加者を案内して、公設市場や壺屋やちむん通り等を散策し、昔ながらの沖縄の食や生活文化に触れる。また地域のおばー・おじーとコミュニケーションを図る。

●実施内容

各グループに卒業生ボランティアがガイド役として加わり、Aコース・Bコースと分かれ平和通りや公設市場等を散策する。
今年から散策ミッションを導入し、楽しくマチグワー散策をする。

- ①散策
- ②ミッション
- ③おやつタイム(散策中に見つけたお店で沖縄のお菓子を食べる)

●結果

散策中に実施したミッションは参加者から好評で楽しく散策をしながら現在の沖縄の食文化や生活を知ることができた。

また地域のおばー・おじーにも声をかけられ、海外参加者が自分のルーツに対して会話している場面もあり、コミュニケーション・交流も図れた。

おやつタイムでは、各グループでお店を見つけ話し合いを行ない、サーターアンダギーや黒糖アイスといった県産の食べ物を食べて沖縄の食にも触れた。

●参加者の感想

「ミッションをグループで解いていくのが楽しかったし、グループの絆が良くなったと思う。普段歩かない沖縄の風景や文化に触れられたと思う。」

県内参加者:女子

「焼き物を見たり、洋服を見たり、シーサーや色んな食べ物を見るのがすごく楽しかった。」

海外参加者:女子

学習プログラム6日目(スケジュール)

■ [6日目] 8月4日(金)

実施内容： ●NGOセンターのワークショップ
●アルベルト城間さんの講演
●世界のウチナーンチュの日についての講演

07:30 朝食

09:00 NGOセンターによるワークショップ
●アイスブレイク
●アイデンティティ・グラデーション②
●学習プログラムのテーマについてグループディスカッション
●学習プログラムのテーマについて発表
●ふりかえり

12:00 昼食(サザンプラザ海邦の弁当)

13:00 行動宣言
●作成
●1人ずつ発表

14:15 アルベルト城間さんによる講演会

15:15 世界のウチナーンチュの日の撮影

15:30 沖縄県による世界のウチナーンチュの日についての講演会

16:30 エイサー練習(サザンプラザ海邦 2階サンプラホール)

18:30 夕食(サザンプラザ海邦 4階首里)

19:30 エイサー練習(サザンプラザ海邦 2階サンプラホール)

20:30 フリータイム
●エイサー自主練
●余興練習

22:00 スタッフミーティング

沖縄NGOセンターによるワークショップ

9:00～12:00/13:00～14:00

講師：大仲るみ子・眞壁由香・佐久田アンドレス・根路銘マリア ソレダ

●目的

ツアー実施して2回目のNGOセンターによるワークショップ
1日目から6日目の中で自分のアイデンティティーについて、どう変化したかを確認する。

●実施内容

午前の部

- ①アイスブレイク
- ②アイデンティティーグラデーション②
- ③学習プログラムのテーマについてグループディスカッション
- ④学習プログラムのテーマについて発表
- ⑤ふりかえり

午後の部

- ①行動宣言の作成
- ②参加者の行動宣言発表

●結果

ツアーの中で参加者自身が「ウチナンチュとしてのアイデンティティー」の変化に気付いた。
海外参加者が1日目のアイデンティティーグラデーションの時よりも、ウチナンチュ側に動いていた。

反対に県内参加者はツアーの中で海外参加者と交流し、海外側に動いている参加者も多かった。
ツアーを振り返り行動宣言を作成することで自身のなりたい姿を再確認でき、他の参加者の宣言からも刺激を受け、目標に向かい進むための後押しとなるプログラムとなった。

●参加者の感想

「アイデンティティーグラデーションで、私は前回沖縄のところにいましたが、今回は真ん中の場所にしました。県内参加者は“沖縄のことをもっと知りたいから沖縄寄り”という人が多かった。」

県内参加者:女子

「このツアー中に様々な経験を積み、改めてアイデンティティーについて考えてみると、100%沖縄ではなかった。」

県内参加者:女子

「ブラジルと沖縄の違いに対して再び考えることができ、とてもよかった。今後私がやりたい仕事に対するモチベーションを持つことも出来た。」

海外参加者:女子

学習プログラム6日目

アルベルト城間さんによる講演会 14:15～15:10

講師：アルベルト城間(ディアマンテス)

●目的

特別講師として、現在活躍しているディアマンテスのボーカルであるアルベルト城間さんによる講演会を実施。

講演会ではペルー出身の県系3世のアイデンティティーと来沖してから現在までのヒストリーを語る。

●実施内容

アルベルト城間さんが特別講師となり、自身のヒストリーを語る。

講話の間に自身が作詞作曲した曲を歌った。

質疑応答を行い、講演後はアルベルト城間さんと参加者全員で記念撮影。

●結果

海外参加者は講演で自分のルーツを再び見つめ直し、先祖がどういった思いで海外に移住したのかを考えた。

また、参加者はこれからウチナンチュである自身が沖縄と海外にどう向き合っていくかを考えさせられた。

●参加者の感想

「一番心に残ったのは、“沖縄の誇りというのは形にできないもので、それは色々な国のことを受け入れてくれる広い心のこと”という言葉です。こんなに素晴らしい沖縄の精神を大切にしていきたいです。また、海外の2・3世のおかげで沖縄が広げられていることに感謝したいです。」

県内参加者:女子

「アルベルト城間さんはとても良い人で彼のストーリーは楽しかった。参加者に人生プランの希望を持たせることができたと思う。」

海外参加者:女子

沖縄県による世界のウチナンチュの日についての講演会 15:30～16:20

講師：沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課班長 山川優

●目的

10月30日に開催予定の世界のウチナンチュの日についてや沖縄県が実施している事業の概要を説明する。

●実施内容

山川優班長が世界のウチナンチュの日についての説明

沖縄県が実施するウチナージュニアスタディー以外の「ウチナンチュ子弟等留学生受入事業」や「海邦養秀ネットワーク構築事業」といった事業の説明を行なった。

●結果

海外参加者の中にはウチナージュニアスタディーをきっかけに「ウチナンチュ子弟等留学生受入事業」で沖縄に留学をしたいという参加者も見受けられた。

学習プログラム7日目(スケジュール)

■ [7日目] 8月5日(土)

実施内容： ● 報告会 ● 修了式 ● さよならパーティー
● 一万人エイサーイベント

- 07:30 朝食
- 08:55 自治会館到着
- 09:00 修了式準備
- 10:00 リハーサル
● 表彰式(賞状受け取り)
● 1分間スピーチ
● 海外参加者の余興練習
- 12:00 昼食(カフーナの弁当)
- 13:00 報告会及び修了式
● 1分間スピーチ
● 修了式
- 14:40 会場転換
- 15:10 さよならパーティー
● 乾杯の音頭
● 食事・懇談(カフーナオードブル)
● 思い出のスライドショー上映
● 海外参加者による余興
● 参加者全員で歌・エイサー
● 参加者全員・スタッフ・ボランティア集合写真撮影
● 卒業生から送る言葉
- 17:35 自治会館出発
- 17:50 パレットくもじ広場到着
- 18:20 一万人エイサーのイベント
● ウチナージュニアスタディーの説明・世界のウチナーンチュの日の説明
● エイサー演舞
● エイサー講師への感謝の言葉
● 集合写真撮影
- 18:50 パレットくもじ広場出発
- 19:05 自治会館到着
- 19:10 確認事項
● フライトスケジュール
● アフター
- 19:30 解散

学習プログラム7日目

報告会 13:00～14:05

●目的

1週間のツアーを通して、参加者たちはこれからの沖縄の未来について考えて述べ、また県内・海外参加者との交流を体験して、どう感じたのかを参加者1人1人発表してもらう。

●実施内容

参加者1人1人が1週間このツアーを通しての1分間スピーチを発表。
海外参加者も1分間スピーチは日本語で発表。

●結果

参加者の中にはスピーチ中にツアーでの楽しい思い出・みんなと過ごした1週間を思い出して涙を流す参加者もいた。会場でスピーチを聞いている参加者やスタッフ、そして保護者やホストファミリーの方ももらい泣きしている姿が見受けられた。

ツアーを通して「沖縄と海外への懸け橋になりたい！」と宣言する子もいた。

●参加者の感想

「一週間は長いようで短くて、言葉の壁はなくなっていた。1分間スピーチではツアーでのいろいろな思いが湧き上がって、スピーチしたら涙が止まらなかった。青年リーダーの加奈絵の「We are Big Familyね～」を忘れずに、またみんなと再会したい！」

県内参加者:女子

「みんなのスピーチを聞いているとき、UJS2017が本当に終わるだな～と実感しました。みんなのスピーチは本当に感銘を受けたし、UJSに対してのみんなの考えや思いを聞くことができ、とても嬉しかった。」

海外参加者:女子

修了式 14:10～14:40

●目的

参加者はツアーの修了証を授与する。

県内参加者には、ツアーを通して、これからウチナーネットワークの次世代を担う一員として修了証を授与。

海外参加者には、海外でも沖縄の魅力を発信し国際交流の懸け橋になるよう沖縄ジュニア大使として認証状を授与。

青年リーダーには、ツアーで参加者たちをけん引し、まとめ役として活躍したことに対し感謝状を授与。

●実施内容

①海外参加者に認証状授与

②県内参加者に修了証授与

③青年リーダーに感謝状授与

表彰者：沖縄県文化スポーツ統括監 山城貴子

●結果

賞状を受け取った参加者は1日目ときの顔と比べてみると、どこか成長している顔つきになっているように感じた。

プログラムの中で「ウチナーンチュ」という意識も変わったのかもしれないと感じた。

学習プログラム7日目

さよならパーティー 15:10~17:25

●目的

海外参加者による余興を披露。各国の伝統芸能や沖縄の舞踊などを披露する。
参加者全員でツアー中に練習したエイサー演舞を披露する。

●実施内容

- ①乾杯の首頭
- ②食事・懇談
- ③思い出のスライドショー上映
- ④海外参加者による余興
- ⑤参加者全員で歌・エイサー
- ⑥参加者全員・スタッフ・ボランティア集合写真撮影
- ⑦卒業生から送る言葉

●結果

海外参加者の余興は圧巻のパフォーマンスで、会場内の人たちを釘付けにした。
ツアー中の海外参加者とは別人のように見え、県内参加者は驚いていた。

●参加者の感想

「全てのパフォーマンスのクオリティーが高くて口が開いたまま見ていた。最後に参加者全員で肩を組んで歌を歌えたことが嬉しかった。」

県内参加者:女子

「思い出のスライドショーを見て、泣いたり笑ったりした。本当にあっという間に一週間が過ぎたと感じた。」

県内参加者:女子

エイサー演舞 18:10~18:40

場所：パレットくもじ前

●目的

一万人エイサーのイベントで参加者がツアー中に猛練習したエイサーを披露する。
また会場のお客さんに「世界のウチナーンチュの日」や「ウチナージュニアスタディー」について説明し、事業のことを知ってもらう。

●実施内容

- ①「世界のウチナーンチュの日」・「ウチナージュニアスタディー」の紹介説明
司会：ヒューイット・ショーン・瑛(2016年参加者)
- ②エイサー演舞
 - ミルクムナリ
 - 三線の花
- ③参加者からエイサー講師への感謝の言葉
- ④参加者への花道
- ⑤集合写真撮影

●結果

参加者は強くたくましいエイサー演舞を2曲披露し、演舞終了後はツアー中エイサーを指導してくれたエイサー講師に感謝の言葉と8か国語で「ありがとう」を伝えた。
その後、参加者・スタッフは涙を流しながら強く抱擁を交わし、ツアーを締めくくった。

●参加者の感想

「参加者と琉球國祭り太鼓のメンバーと同じ場所で一緒に演舞ができて幸せでした。」

海外参加者:女子

さよならパーティー式次第

日時：平成29年8月5日（土） 15:10～17:25
場所：自治会館 ホール

- | | | |
|-------|-------------|---|
| 15:10 | 開会 | 司会：ウチナージュニアスタディー卒業生
中村 優太(16期)
石川 勇人(16期) |
| 15:11 | 乾杯の音頭 | 沖縄パンアメリカン連合会
会長 大山 盛稔 |
| | 食事・懇談 | |
| 15:30 | 思い出のスライドショー | |
| 15:50 | 余興 | 海外参加者 |
| 16:41 | 歌 | 参加者全員 |
| 16:56 | エイサー | 参加者全員 |
| 17:14 | 集合写真 | 参加者・スタッフ・ボランティア |
| 17:21 | 卒業生から送る言葉 | ボランティア |
| 17:25 | 閉会 | |

余興式次第

15:50	歌 (かりゆしめ踊い/想偲び)	ガブリエル(アメリカ)
15:55	三線&歌	アマンダ(アメリカ) ガブリエル(アメリカ)
16:00	HIP-HOPダンス	ジェイミー(フィリピン)
16:03	エイサー(大太鼓)	マイケル(アメリカ)
16:06	空手	オーシャン(カナダ)
16:08	舞踊 (あんまー形見ぬ一番着物)	マリン(ブラジル)
16:11	歌 (Let It Go)	茶梨沙(アメリカ)
16:16	フィリピンダンス	ジェイミー(フィリピン)
16:18	歌 (Cielito Lindo)	マリア(メキシコ)
16:22	アルゼンチンダンス	ビクトリア(アルゼンチン) アグスティナ(アルゼンチン)
16:25	ボリビアダンス	千智(ボリビア) 恵(ボリビア)
16:28	ペルーダンス	アリサ(ペルー)
16:31	HIP-HOPダンス	丈浩(韓国)
16:35	ブラジルダンス	アケミ(ブラジル)
16:38	歌 (島唄)	愛(カナダ)

エイサー講習

講師：佐久田瞬香(琉球國祭り太鼓 国際部長)

日時・場所

7月31日	19:30~20:30	つつじエコパーク管理棟広場
8月 1日	16:45~18:15	つつじエコパーク管理棟広場
8月 2日	19:30~21:00	サザンプラザ海邦 2階サンプルホール
8月 3日	19:30~21:00	サザンプラザ海邦 2階サンプルホール
8月 4日	19:30~20:30	サザンプラザ海邦 2階サンプルホール
8月 5日	16:50~17:10	沖縄県市町村自治会館ホール(さよならパーティー)

●目的

最終日のさよならパーティーで県内参加者の保護者・ホストファミリー・関係者の前で演舞を披露する。

また一万人エイサーのプレイベントとしてパレットくもじ前広場において一般のお客さんの前で演舞を披露する。

●実施内容

琉球國祭り太鼓のエイサー講師の佐久田瞬香氏の指導のもと、ツアー中に参加者は2曲のエイサー演舞の練習を行ない、最終日のさよならパーティーと一万人エイサーのプレイベントで披露。

●結果

練習当初はエイサー未経験者も多く、グダグダで始まったエイサー練習。毎日練習を積み重ね、参加者が真剣にエイサーに取り組む姿が見受けられた。

1曲目の『ミルグムナリ』は昨年と同様の演舞であり、2曲目の『三線の花』は参加者が話し合い、選曲した曲である。

『三線の花』は難易度の高い演舞であるが、参加者が決めた曲ということもあってか参加者は熱心に練習をした。

最終日のさよならパーティーと一万人エイサーのプレイベントでエイサー演舞を披露し、無事成功で幕を閉じた。

エイサー講師の佐久田瞬香氏はさよならパーティーでも一万人エイサーのプレイベントでも参加者の演舞している姿を見て感動し、涙を浮かべていた。

「三線の花は、彼ら参加者にとってもマッチしていて、さらに感情が高まった」と話した。

●参加者の感想

一万人エイサーのプレイベントでは、「これが全員で最後の演舞でツアーのことを思い出しながら演舞した」と涙を流しながら語った。



アフター(スケジュール)

■ [アフター] 8月8日(火)

実施内容： ●おきなわ国際協力・交流フェスティバル展示物作成
●振り返りシート・作文提出 ●Tシャツ寄せ書き

13:00 集合・出席確認

13:05 展示物についての説明

13:10 展示物作成開始

～ツアー7日目の振り返りシート・作文を提出～

16:00 Tシャツに寄せ書き

16:30 片付け

17:00 終了・解散

アフター 13:00~17:00

●目的

JICA沖縄で2017年11月18日(土)に開催される『おきなわ国際協力・交流フェスティバル2017』に沖縄県のブースにてウチナージュニアスタディー事業紹介として制作物を展示する。その展示物を参加者全員で作成する。

またツアーの思い出として参加者同士でTシャツの寄せ書きをして一生の宝物にする。

●実施内容

- ①展示物作成
- ②振り返りシート・作文提出
- ③Tシャツに寄せ書き

●結果

参加者たちは話し合いながらツアー中の写真を選び、楽しんで展示物を作成している様子だった。みんなで協力して作成した展示物は最高の仕上がりで完成できた。

展示物を作成後はツアーTシャツに寄せ書きを行なった。その中には楽しい思い出や再会を誓い合う言葉が書かれていた。



見送り

日時：8月6日(日)・9日(水)

場所：那覇空港



見送り

日時：8月6日(日)・9日(水)

場所：那覇空港



ボランティア事前打ち合わせ

日時：5月27日(土) 14:00~18:00

場所：サン・エージェンシー会議室

●目的

プログラム実施前にジュニアスタディーツアー・ウチナージュニアスタディーのOB・OGが集まり、ボランティアスタッフとしての活動内容と参加者がツアーを楽しめるプログラム構成の打合せを行なう。

●実施内容

- ①ボランティアの参加する日程・プログラムの確認
- ②過去のボランティアの反省点
- ③事前学習の交流プログラムの内容構成
キャンプファイヤーの内容構成
マチグワー散策の内容構成

●結果

今回は16期が中心となりボランティアの活動を行なった。
事前学習・ツアーでのボランティアの参加人数は延べ66名だった。
昨年の反省点を踏まえプログラムを修正し、参加者が楽しく実施できるようなプログラムを構成した。
今回、特に力を入れたマチグワー散策のグループ対抗のミッションが参加者からとても好評だった。

ツアー中の交流プログラムを通し、「ボランティアの皆さんに感謝している。来年は私もボランティアに参加したい」と発言した県内参加者がいた。



那覇大綱挽まつり「市民演芸・民俗伝統芸能パレード」

日時：10月7日(土) 11:00~16:00(本番14:05~)

場所：国際通り・県民広場

●目的

那覇大綱挽まつり「市民演芸・民族伝統芸能パレード」に参加し、県内参加者とウチナーンチュ子弟等留学生は各国の衣装を着て、世界のウチナーンチュの日のPRを行なう。

●実施内容

- ①てんぶす館レッスンルーム①に集合
- ②各国の衣装に着替え
- ③壺屋小学校に移動
- ④パレード(国際通りを行進)

●結果

16期の県内参加者8名・17期の県内参加者4名とウチナーンチュ子弟等留学生9名の計21名でパレードに参加した。

本番当日は猛暑の中、参加者たちは各国の民族を身にまとい、大勢の観客に向け笑顔で手を振り「世界のウチナーンチュの日」のPRを行なった。



世界のウチナンチュの日制定記念祭

日時：10月30日(月) 12:00~21:00

場所：沖縄ハーバービューホテル 彩海の間

●目的

世界のウチナンチュの日のエンディングで県内参加者が未来へのメッセージを伝え、県系人歌手の大城クラウディアさんと一緒に「世界のウチナンチュの日」CMソングの“ミライカナエ”を合唱する。

●実施内容

- ①12時 集合
- ②12時50分 個別リハ
- ③昼食
- ④15時30分 ランスルー
- ⑤18時30分 制定記念祭開幕(本番)

●結果

12時に集合。県内参加者全員が集まるのは久しぶりということで話が盛り上がり楽しそうだった。

12時50分の個別リハが始まると彼らは顔の表情が変わり、未来に向けたメッセージや合唱の声小さくて緊張している様子だった。

個別リハを終了後、彼らは次の15時30分からの始まるランスルーまでにホテルのチャペルでメッセージと歌の練習を行なった。

ランスルーは個別リハよりも声が出て、表情も笑顔が出ていて緊張がほぐれた様子だった。

本番になると彼らは、少し緊張した顔で席についた。

出番のエンディングになると、胸を張って堂々とステージにあがり、未来に向けたメッセージを伝え、大城クラウディアさんと肩を組み、ミライカナエを合唱した。

エンディングを終え、会場内は大きな拍手が沸き起こった。

エンディング後にはステージに設置された大型ビジョンで海外参加者のメッセージ動画が流れ、世界のウチナンチュの日制定記念祭は幕を閉じた。

- ボリビア参加者 比嘉千智
- メキシコ参加者 ナカソネ マリア(あつこ)
- カナダ参加者 親川愛
- アルゼンチン参加者 花城ビクトリア
- ペルー参加者 ムラタ アリサ



おきなわ国際協力・交流フェスティバル2017

日時：11月18日(土) 09:30～18:00

場所：JICA沖縄国際センター 本館2階203号室 沖縄県ブース

●展示内容

毎年11月にJICA沖縄国際センターで開催されている「おきなわ国際協力・交流フェスティバル」の沖縄県ブースにて、参加者が8/8(火)のアフターで作成した展示物を沖縄県ブースにて展示する。

多くのお客さんに展示物を見てもらい、事業概要を説明行ない、ウチナージュニアスタディーのことを知っていただく。

また、学生中心に説明を行ない、次年度の参加者の応募に繋げる。





稲福 優衣(14)

Yui Inafuku

浦添市立港川中学校

私は、ウチナージュニアスタディーに参加してたくさんのことを学びました。最初は、どうしたらいいのか分からなかった言葉も、ジェスチャーや知っている文章を使えば、文法なんて気にしなくても、通じることが分かりました。会話が成り立つと、沖縄の事について聞かれるようになりました。すると、今まで自分の住んでいる場所のことぐらい知っていると思っていたけれど、答えられないことが多々あり、このままでは駄目だなと思いました。

トレッキングやビーチ、バーベキューなどの全てのプログラムは、いつもよりとても楽しかったです。驚いたのは、紅型体験で、海外参加者の方が私よりも上手だったことです。皆、器用だな～と思いました。チラガーやミミガーはいつも、当たり前のように見ていたけど、カナダから来たオーシャンは、「初めて見た」とかなり引いていました。最初は、長そうだなと思っていた一週間もあっという間に過ぎ、いよいよ最終日。さよならパーティーでは、ダンスやエイサー、歌など一人でもステージの上で堂々と、そして上手に発表していて凄かったです。一分間スピーチでは泣く人も多く、私はこのメンバーに出会えて本当によかったなと思いました。海外参加者の皆は、「今回学んだことを県人会の若者たちに伝える」と言っていたので、県内参加者も多くの人に沖縄の良いところを伝えていきたいなと思いました。エイサーも毎日練習した成果がでてとても感動しました。今回のウチナージュニアスタディーに参加して、海外に住んでいる友達が増えたし一週間を通してほかの国と日本の違い、文化を学ぶことができました。私達の絆は家族のように固く結ばれているような気がします。私にこんなにも素晴らしい体験をさせてくれて本当に有難うございました。これからも、この絆を大切にしていきたいです。



高野 美月(15)

Mizuki Takano

浦添市立神森中学校

「あなたは沖縄が好きですか？」と聞かれたら今では「大好きです!!」と答えます。ジュニアスタディーの一週間、沖縄の文化、芸能、平和、自然、色んなことを学び、体験しました。

私は6年前に沖縄に引っ越して来て、沖縄の血は入っていない、「ナイチャー」です。でも、沖縄に6年間も住んでいるのに「ウチナーンチュ」じゃないの?と思いました。でも一週間が終わった今、「血」も大事だけど「沖縄が好き」という気持ちがあれば「ウチナーンチュ」と言っているんだ!と思うようになりました。私はこれからは堂々と「私はウチナーンチュです。」と言います。

また、自分が日本や沖縄のことを全然知らない、という事に気付きました。海外参加者に沖縄の文化を教えるつもりでいたのに、逆に海外参加者にエイサーやうちなーぐちを教えてもらいました。もっと沖縄について知りたい、学びたいです。次世代に沖縄の文化を継承する担い手になりたいです。

もう一つ、英語をもっと話せるようになって、自分が言いたいことをちゃんと相手に伝えられるようになりたいです。スペイン語にも興味が出てきて、高校生になったらスペイン語の勉強をしようと思います。

この一週間を通して、10ヶ国のメンバーと本当の家族、兄弟のように仲良くなりました。あっという間で、もっとみんなと一緒にいたかったです。国も文化も、話す言語の違いも超えて、心が通じ合ったと思います。こんなにすばらしい仲間に出会えたこと、本当に感謝しています。沖縄の「いちゃりばちょーでー」「一度会ったらみな兄弟」と、「ゆいまーる」の心を大切にして、世界中に沖縄のすばらしさを伝えていきたいです!! 沖縄大好きです!!

いつペーにふえーでーびたん!!



當山 彩奈(17)

Ayana Toyama

沖縄県立読谷高等学校

私は生まれも育ちも沖縄のれっきとしたウチナーンチュです。ですが、堂々と「私はウチナーンチュです！」とは言えないと、この事業を通して思いました。なぜなら私はまだ沖縄の詳しく知っていないと気づいたからです。海外参加者である県系二世・三世たちは、方言を話したり、三線を弾いたり、沖縄の文化についても詳しく知っていました。つまり、私が沖縄について知る側になっていたのです。普通ならばウチナーンチュである私が沖縄の魅力を伝えなければならぬのに。私はウチナーンチュとして、とても恥ずかしくなりました。今まではもっと海外を知りたいと思っていましたが、これからは自分の生まれ育ったここ沖縄をもっと知り学んでから海外を知っていきたいです。そして、海外の人達に、沖縄の魅力を存分に伝えられる、誇りを持ったウチナーンチュになれればと思います。そのために、これからも積極的にいろいろな活動に参加し、勉強も忘れず新しくスペイン語も学んでいきたいです。私にとって、10か国のメンバーで、英語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・日本語の5か国語が飛び交う環境は、とても楽しく刺激のある毎日でした。ウチナージュニアスタディーで過ごした七日間を忘れることはありません。そして、この事業をするにあたって、私達をサポートしてくれたスタッフの皆さんや、共に過ごした33名のメンバー、本当に

『ありがとうございます』

『いっぺーにふえーでーびる』

『Thank you very much』

『Muchas gracias』

『Mutio obrigada』

『カムサハムニダ』

『Maraming salamat』

また皆と再会できる日を楽しみにしています。



與那嶺 元就(18)

Motonari Yonamine

沖縄県立北中城高等学校

正直この作文用紙2枚分にこの感想、思いは書き収まらないほどあるけど頑張って2枚以内に書きます。

最初はあんまり楽しみではありませんでした。海外参加者たちとちゃんとコミュニケーションがとれるか、たった3人の男で大丈夫なのか等、不安だらけでした。1日目は部屋がヒロと同じであまりコミュニケーションできずにその日は早く寝ました。2日目はつつじエコパークで男子みんな同じ部屋ということでガブリエルもマイケルも一緒に、みんなで風呂に行ったり、夜遅くまでゆんたくしたり等、だんだん仲良くなってきたし、相手が何を言ってるかも分かってきました。こうして自分からも積極的に英語を使ってコミュニケーションして仲良くなれました。日が経つにつれて、友達も増え、たくさん話もして、もう一週間が終わりそうになってくる程に、もっとみんなと一緒に居たいと強く想ってる自分があるのにおどろきました。みんなで学んだ平和学習などは小・中でたくさん行ってきたけど、新しい感情が芽生えるなど、あの頃は全然ちゃんと見てなかったんだなと思いました。ワークショップでもたくさん考えたけど出した結果は「分からない」という感情だったり、とても深く学ぶことができました。平和って人、地域、国、世界によってたくさんの概念や答えがあると思いますけど、その答えがひとつになった時はじめて「平和」って言える気がしました。カじゃない、ただ分かり合うことで達成できるのだと、これはこのウチナージュニアスタディーでも同じことが言えると思いました。平和への道なんてなくて、平和こそが道なんだと強く思い知らされました。イチャリバチョーデーも同じです。

このウチナージュニアスタディーがもし学校であって、このメンバーがクラスのメンバーだったらどんなに最高だろうか。もっとみんなと一緒にいたかったです。とても楽しかったです。みんなににふえーでーびる！



田中 省冴(16)

Shogo Tanaka

沖縄県立陽明高等学校

今回、この研修に参加できてとてもよかったと思います。なぜなら、この研修では、たくさんの海外参加者と楽しい一週間を過ごすことで、多くの国に友達ができたり、自分の知らない沖縄を知ることができたり、海外参加者と過ごしていくうちに、学ぶことがあったりと、多くの思い出と共に多くの学ぶ事がありました。その中で印象に残ってることは四つあります。

一つ目は、キャンプファイヤーなどで、団結力が深まったことでこの研修がとても楽しくなったこと。二つ目は、平和祈念資料館や平和の礎、ひめゆり平和祈念資料館などでの学習は、戦争の悲惨さを学び、「戦争は二度としてはいけない」という思いはどこの国も同じで、だれもが望んでいないことだと知りました。こういうことから、平和につながっていくのではないかと思います。三つ目は、アルベルト城間さんの講演で、その国の文化を受け入れる気持ち、いつでもウチナーンチュは進化していき、自分を持つことが大切など、ウチナーンチュとしてのOKINAWA Spiritsについて知ることによってこれからのウチナーンチュの生き方について学ぶ事ができました。最後に、みんなでエイサーを踊って、改めて知ったことがあります。それは言語が違ってても、ウチナーンチュとしての「心の繋がり」があることがあることに改めて知ることができました。

この研修は、じぶんにとってただの研修ではないと思いました。この研修で自分のなりたいものを決めることができたり、もっと多くの沖縄のことを知りたいと思ったり、この場でこの研修を終わらすのではなく、たくさんの人に伝えたいと思いました。そして、この絆は一生切れるものではない。というたくさんの気持ちがありました。一週間という短い研修でしたが、参加者の皆さん、スタッフの皆さん、OB・OGの皆さん、いっぱいにふえーでーびる。



仲村 香南(16)

Kana Nakamura

昭和薬科大学附属高等学校

私は、ウチナージュニアスタディーを通して学んだことが二つあります。

一つ目は、新たな視点から見ることでできた沖縄です。移民などの話は、見送った側、つまり沖縄にいた人の話しか分かりませんでした。しかし、今回のツアーを通して、移民として行った側の生活などを新たに知ることができました。

二つ目は、積極的にコミュニケーションをとることの大切さです。初日は、みんなどのようにせっしていいか分からず、とてもぎこちなかったです。私もこのまま一週間過ごすのかなあと心配していました。しかし、キャンプファイヤーや色んな施設の観光を通して何でも話せるほど、仲良くなれました。ずっと前から友達だったかのようなぐらい仲良くなれ、もう家族同様の存在になったのではないかと思います。

初日は、体調をくずしてみんなと会話できなかつた不安をEグループのメンバーが取り除いてくれました。みんな話す言語が全然違うという中で、最初は身ぶり手ぶりのボディランゲージから始まり、最終的には互いの言葉で簡単に話せてよかったです。それだけでなく、グローバルなウチナーンチュになるため、新たな沖縄をもっと発見していきたいと思います。いっぺーにふえーでーびる。



生盛 翔大(19)

Shota Seimori

沖縄県立首里高等学校

ツアー以前は、言葉が通じるか、コミュニケーションがとれるか、一切心配することはなかった。その自負はツアーを通して自信になった。一番大切なのは言語でもなければ、笑顔や身ぶり手ぶりのボディランゲージでもない。一番最初にもつべきものは人への関心だ。

「この人と仲良くなりたい。」という思うことだ。そうすることでその他の能力は勝手に磨かれていくだろう。

このことは対人間関係だけでなく、ウチナーネットワークや平和の構築にも言える。私たち若い世代が関心を持たなければ、それから受け継がれることはなく、廃たれ忘れられていく。私がウチナージュニアスタディーツアーで感じたことは、こんなに美しくすばらしい誇り高い文化を失ってはいけぬ。戦争を再び起こしてはならない。ということだ。

このツアーのメンバーで強いネットワークを結びさらにそれを広げ繋げる。私たちの関心興味が沖縄を守り発展させていく。

沖縄の発展だけでなく、世界の平和発展のためにもウチナーンチュスピリッツは有効である。私たちの平和を愛する精神や空手の教えは文化と共に世界へ向けて発信するべきものの一つだ。

私はシーサーになりたい。心に平和を愛するウチナーンチュスピリッツを据え、様々な困難に勇猛果敢に立ち向かう。自分の行動にいつも魂を込める。シーサーであることを忘れずに沖縄文化、歴史への関心、ウチナーネットワークへの一端を担う誇り、震天動地を掲げていきたい。

このような学びの機会を用意して下さった沖縄県をはじめ、関わっている全てのスタッフさん、ツアーを支えて下さったOB・OGの皆さんに感謝しています。とても意義のある学びです。第一回で終わるはずであった事業が各県人会の要望で続いていることこそ確かなウチナーネットワークの証明であり誇りです。ここで出会った仲間達と次世代のウチナーネットワークを構築していきます。



大城 瑠奈(19)

Runa Oshiro

沖縄県立那覇国際高等学校

今回、このウチナージュニアスタディーに参加して私は多くのことを学ぶ事ができました。そして、何よりもこの事業に参加して幸せだったのは、新たな絆が国境を越えて生まれたことです。その絆は私自身の一生の宝物になるだけではなく、将来の沖縄と世界をつなぐ架け橋になると確信しています。

私がこのプログラムに参加しようと思った理由のひとつに、留学中に私は自分のアイデンティティーは日本人ではなく、ウチナーンチュであるという意識が強かったが、沖縄のことを聞かれても知識不足であるという矛盾を直したかったという理由があります。そして、実際にこの一週間の研修で沖縄の文化・歴史に関する場所を訪れ、学ぶことができました。初めて訪れたひめゆり平和祈念資料館では、2つの女子学校が合わさった名前が「ひめゆり」という名になったということをはじめて知りました。

しかし、この研修を終えた今私が考えていることは、確かに沖縄についての知識について勉強することは大切であるが、それよりももっと大切なことは目には見ることができない「ウチナーンチュの心」について考えることが大切だということです。

あの博物館で展示されていた万国津梁の鐘にすでに示されているように、ここ沖縄は小さい島であるのにも関わらず、琉球王国の時代から世界を飛び回っていました。なぜそんなことが可能だったのだろうか。それこそ、琉球民は自分達の土地に誇りを持ち、かつ相手を尊重する気持ちをいつも持っていたからだろうと私は考えます。

だから、いちゃりばちよーでー、ゆいまーる、といった「ウチナーンチュの心」をこれから先の自分自身の人生で大切にするのはもちろん、もっと多くこの心を伝えるよう私は努力します。あと、この研修を通しての出会いに感謝し、大学生になったら世界のウチナーンチュを巡る旅に出たいです。



友利 木綿子(18)

Yuko Tomori

沖縄県立那覇西高等学校

海外参加者と一緒に過ごすことで沖縄が世界中で愛されていると実感でき、沖縄が大好きになりました。自然学習のビーチではいつも入っている海なのにポリビアではあまり海に入れない、こんなにきれいな海に入ったのは初めてだという声が聞こえて私ではじめて入った感覚になりました。とても楽しかったです。Jamieeがスマホをそのまま海に持って行って落として、使えなくなっていました。でもなんとあと1つスマホを持っていてビックリしました！

そして平和学習では平和の礎に千聖の親族の名前が載っていて、私と同じ沖縄の血が混ざっているんだと形で見ることができました。次のひめゆり平和祈念資料館は行ったことはあるけれどももう記憶にはないのでほぼ初めての感覚でした。学徒隊体験者の方がおっしゃっていた「命より大事なものはない、どんなに頭が良くても親より先に死んだら親不孝だよ。」という言葉は忘れられません。平和構築ワークショップでは自分のファミリーストーリーを知るべきだという意見を出しました。皆は今回、沖縄にルーツがあると知っていたから私たちと繋がり一緒に学べたのです。誰も戦おうとはしていませんでした。自分の歴史を知ることが大切です。他にも教育を通して平和について考えるべきなど意見がたくさんありました。皆で考えることができてよかったです。

最後の学習、アルベルト城間さんの講演はとても面白かったです。まさか1時間の間であんなに歌うとは思いませんでした。

ウチナーンチュの受け入れる心は今も昔も変わっていないと感じました。アルベルト城間さんの歌は声が力強くて応援されているような気がします。当時の人々もこの力強い声に勇気づけられてと思います。アルベルト城間さんに続けられるように世界のウチナーンチュを発信していきたいです。

また毎晩のエイサー練習はとても楽しかったです。瞬香さんが正々堂々と教えてくれて体の中にスッと入ってきました。最初の頃は1人だけ太鼓を叩いてしまったり、声が小さかったけれど、本番は最高の掛け声で感動しました。親に成長した姿を見せられたと思います。次は皆で大会に出たいです。

このプログラムで沖縄をもっと勉強して他の人に自信をもって沖縄を自慢できるようになりたいと思いました。私には祖父母が両方ともいなくて昔の沖縄を知る機会は少ないのですが、近所のおじー・おばーと積極的にコミュニケーションをとっていきます。4年後の世界のウチナーンチュ大会で全員集合できることを願います。最高の体験ができてよかったです。ありがとうございました。



中川 友希(16)

Yuki Nakagawa

沖縄尚学高等学校

ウチナージュニアスタディーは、私の人生を大きく変えてくれたプログラムでした。この1週間で、私が一番嬉しかったことは、9カ国に新しい友達ができたことです。最初は、言葉が通じるか、みんなと友達になれるかすごく不安でした。しかし、プログラムが始まってみると、みんなフレンドリーですぐに仲良くなれました。言葉の壁があっても、ジェスチャーなどを通して、コミュニケーションを取れることを感じ、とても感動しました。また、お互いでそれぞれの国の言葉を教えあったことも私にとっていい刺激になりました。実際にプログラムがスタートしてみると、海外参加者の方が沖縄について多く知っていて、とても驚きました。驚いたのと同時に、沖縄のことについて何も知らない自分がとても恥ずかしくなりました。しかし、このプログラムを通して、今まで知らなかった沖縄など海外参加者と学ぶことで新たな発見が多くあり、沖縄のことについて深く知ることができて自分にとってすごくいい経験になりました。今回学んだことを忘れないためにも自分でもっと勉強していきたいです。そして、ウチナーンチュとして、沖縄の魅力を世界に発信していき、世界と沖縄を繋げることができるような人になりたいです。

ウチナージュニアスタディーで過ごした1週間は今までで一番濃い1週間でした。思い出がありすぎて言葉で言い表せないほどです。ですが、ここで出会った友達、思い出は私にとって一生の宝物です。1週間という短い期間でしたが、参加者全員と本当の家族のようにつながることができたと思います。私は、4年後の世界のウチナーンチュ大会でみんなと沖縄で会えることを信じて、このプログラムで見つけた通訳者になるという新たな自分の夢に向かって突き進んで行きます。そして、来年からはボランティアとしてウチナージュニアスタディーに参加する中高生を支えていけるように頑張ります。1週間ありがとうございました。



喜屋武 瑚乃海(17)

Konomi Kyan

沖縄尚学高等学校

私が今回このプログラムへの参加を決めたのは、一年留学から帰ってきて自分のルーツである沖縄への愛を再確認し、もっと沖縄への愛を深めたいと思ったからでした。九ヶ国もの人と沖縄でつながっているというのが私にとって初めてのことで不思議な感覚でした。こんなにも遠く離れた地に住む沖縄県系人の人が沖縄を変わらず愛して大切にしていることが私にとって大きな喜びでした。

中でも一番心に残っているのはアルベルト城間さんの「沖縄の誇りは形にできるものではなくて、ちむぐくる精神・受け入れる温かさだ」という言葉です。沖縄には世界に誇れる美しい伝統や綺麗な自然がたくさんありますが、やっぱり一番の誇りはどんな綺麗な写真にも写すことのできない感じるこれが分けるこの「ちむぐくる」の心です。私がいつも思うことがあります。それはこの世界中の人々一人一人が少しでも謙虚な心を持てば、受け入れる心を持てれば世界はどれほど平和になるのだろうかということです。どんなことにおいても大切なのは、自分が正しいと思わないこと相手を理解しようとし受け入れる心を持つことだと私は思っています。この沖縄の「ちむぐくる」を沖縄から世界に伝えていければ世界平和にもつながると考えています。またこのプログラムのように次世代を担う若者達が集まり価値観を共有し仲間意識を高めることで平和、そしてこの美しい沖縄の伝統と文化を継承していくことにつながるのです。

この一週間、私はたくさんの愛をかんじました。沖縄を通して感じた愛です。私はこの愛を、そしてこの美しい沖縄の伝統と文化を世界に広めていける人になりたいです。このプログラムを通して出会った人、このような素晴らしいプログラムを企画して下さった方々に心から感謝の気持ちでいっぱいです。一生の宝物です。本当にありがとうございました。このプログラムをぜひこれからもつづけて、増やして行ってほしいです。



神里 和花(18)

Nodoka Kamizato

沖縄県立南部商業高等学校

私は、ウチナージュニアスタディーで、琉球舞踊を中心とした芸能を伝えたいと思っていました。でも、実際は、教えるより、教えられることの方が多かったなと感じました。

各国に県人会があり、その中で沖縄の芸能などを、海外の参加者たちは学んでいるのだということを知り、こんな遠い国でも沖縄の事を知ろうとしていることにうれしく感じ、自分も、沖縄や、他国のことをもっと学びたいと思いました。

ツアー中は、美ら海水族館のバックヤードを見学したり、イルカショーでみんなで水をあび、海で泳げない私をフォローしてくれたり、川でのトレッキングの時も、足がつかなくて前に進めない時、後からおしてくれたり、みんなの優しさに触れることができうれしかったです。

何度も行ったことがある平和祈念資料館では、同じ沖縄戦でも国によってとらえ方がちがったり、体験した人1人1人にいろんなストーリーがあることを知りました。

マチグワー散策では、何度も通ったことある道でも、みたことのない井戸があったり、知らない道や場所もあって、新しい発見がたくさんできました。

各施設へ移動中のバスの中でも、みんなとの会話の中で、学校の始まる日がちがうことや、共通の趣味のことを話して、楽しむことができました。

アルゼンチンや、メキシコなど、いろんな国からのおみやげでもらったおかしやキーホルダーも、とてもうれしかったです。普段食べれない物を食べて、すこしふしぎな気持ちでした。

一週間は長いようでとても短かったけど、いろんな国の人たちとつながれたし、知らなかった沖縄を知ることができて、自分にとって、とても大きな財産となりました。



大城 里緒(18)

Rio Oshiro

沖縄県立向陽高等学校

今回参加させていただいたウチナージュニアスタディーは、私の人生において最も充実し最高の友を得た、かけがえのない一週間となりました。

まず、他国の同世代と一緒に沖縄について考えることで、様々な価値観に触れ普段と違う角度から沖縄を見ることができました。特にエイサーや空手、三線など伝統芸能は、私達の想像以上に海外の人からは魅力的なものだとわかりました。話し合いの中で、「沖縄の若者はもっと伝統芸能に関わるべきだ。」と海外の子から言われ、沖縄に住む私達こそもっと伝統を受け継がなければいけないと感じました。また、自分のアイデンティティーについて考えることで改めて「私はウチナーンチュである」というのを強く認識しました。

そして何より、最高の友を得ることができました。緊張で上手く会話が取れなかった初日からは想像もつかないほど、強い絆を結ぶことができました。キャンプファイヤーではグループで力を合わせてゲームを楽しんだり、OB・OGの先輩方も含めみんなで一つの輪になって踊りました。興奮がおさまらず、消灯後もおしゃべりが止まらなかったのも一つの思い出です。一番嬉しかったのは、友だけでなく姉妹も出来たことです。ホテルでずっと同室だったブラジルの子と誕生日が近く、計算してみるとほとんど同じ時に産まれていました。

「私とリオは双子だね。」と言われてとても嬉しくて、地球の裏側に住む双子とずっと仲良くしたいと思いました。

私は今回参加して得た経験や知識、感じたことを活かし、将来は子供達に楽しく島くとうばを教える国語教師となり、後世まで伝統を継承する人材になりたいです。

ここで作った思い出や絆はいつまでも続くと思います。参加できて本当に良かったです。そして関わってくださった全ての人々へ、いつペーにふえーでーびるを伝えたいです。



知念 菜々子(18)

Nanako Chinen

沖縄県立向陽高等学校

私ははじめ、このプログラムを通して海外参加者に沖縄のいいところを知ってもらいたいという思いがあり応募しました。でも、実際は自分が想像していたこととは全く違って、私自身が学んだことの方が多くありました。

まず、このツアーを通して私が知らない沖縄の自然、歴史、文化などをたくさん学ぶことができました。それと同時に、私は本当の沖縄の良さを分かっていないということに気づきました。海外参加者の方が沖縄の芸能にたくさん触れている感じがしましたし、今の私は、沖縄という自分の国を海外参加者のように堂々と説明できる気がしません。だから、これからもっと自分の大好きな沖縄について勉強して、世界に沖縄を広げていくことのできる人になりたいです。

そして、今回のプログラムは、10カ国から人が集まっていた、分からない言葉などたくさんありましたが、みんなで仲良くコミュニケーションをとることができたことが本当にうれしかったです。何よりも、いろいろな視点から沖縄をはじめ、世界を見つめることが大切だと感じました。アルベルト城間さんの講演の中でも、ウチナーンチュとしての誇りというのは、決して形にはできないもの、いろんな国の文化を大切に、広い心で受け入れるウェルカム精神こそがウチナーンチュとしての誇りだ、という言葉がとても心に響きました。だから、今回出会った仲間とは、一生の友達であり、同じウチナーンチュです。日系2世、3世、4世であっても、沖縄を愛し、自分の国で沖縄を広めたいという気持ちを持ってきている海外参加者に本当に感謝したいです。今回このプログラムで学んだことを家族をはじめ、私の周りの多くの人に伝えていきたいです。そして私も負けなくらい沖縄のために尽くしていきたいと思います。私は大学で、英語だけでなくもう一つ外国語を勉強して、世界と沖縄の架け橋となるような仕事に就きたいです。今回、このような貴重な機会を与えてくれた関係者の皆様に感謝したいです。本当にありがとうございました。



西原 新菜(18)

Nina Nishihara

沖縄県立豊見城高等学校

私が今回UJSに参加しました。一週間県内と海外から来た同世代の県系人と一緒に一週間を共にしながら沖縄の歴史、自然、移民について学びました。県内にいながら初めて訪れた場所、初めて知ったこと、また海外参加者から学ぶことも本当に多くありました。

平和学習では昔から学校でもたくさん勉強してきたけれど初めて知ったことが多く、ひめゆり平和祈念資料館ではどのようにして戦争にまきこまれたのか初めて知りました。そのあとのワークショップではグループで意見を交換もしました。私のグループは、アメリカ、メキシコ、韓国、日本の4カ国で意見交換をしたので見方の違いなどがよくわかりました。

今回の一週間では、毎日エイサーの練習もしました。毎日2時間ぐらい練習して、足も腕も筋肉痛になったけど、やっぱり昔からエイサーは好きだったのでがんばりました。最終日にみんなの前で踊ったときは、感きわまって泣いてしまいました。達成感とおわってしまうさみしさがたくさんあふれてきました。

Eグループは個性的なグループでした。「みんなのアイドルヒロ」と「お調子もののマイキー」「しっかりものの友希と香南」、「エイサー上手で日本語・英語・スペイン語が話せて、とても頼りになる最年少のあつこ」そして、「頼りないリーダーの私」。どのグループよりうるさくてまとめるのが大変だけどどのグループより自分たちのグループが大好きだと思います。4カ国後で意見を聞いたりするのが大変だったけどみんなでちゃんとコミュニケーションもとれていました。Eグループだけでなく、このUJSの参加者みんな私の大切な家族でこの一週間はこれまでもこれからも忘れないとても素晴らしい一週間と断言できます。



松長 加奈絵(18)

Kanae Matsunaga

沖縄県立南部農林高等学校

七日間のウチナージュニアスタディーツアーを通して、生まれた国や育った環境が違っていても沖縄に対する愛は一緒なのだと感じました。

私は参加する事が決まってから、海外から参加する人たちに沖縄の様々な事を教えあげられたらいいなと思っていましたが、ツアーの中の学習や海外参加者を交流していく中で住んでいる沖縄の歴史や文化など知らない人が多いことに気づいたり、逆に海外参加者に教わる事があったりと、新しい沖縄を知ることができました。

平和学習の一つとして見学したひめゆり平和祈念資料館では、一人一人の自分が考える平和についての意見交換をした時間はとても貴重な時間となりました。沖縄戦から学ぶ平和を様々な視点から考えることができ、一つの物事をたくさんの方があるのだと勉強にもなりました。また、私は祖母がひめゆり学徒隊の一人だったこともあり、その歴史を深く知りたいと思いました。

プログラム一日目は少し不安があったのですが、一日一日を一緒に過ごし、七日間という短い間で築くことができた絆は私の宝物とし、これからも繋がっていったらと思います。プログラムを通して、沖縄についてもっと勉強し発信していけるようになろうと思いました。また、私の学校から参加するのは私が初めてということもあり、ウチナージュニアスタディーツアー事業のことや沖縄にルーツを持っている人が世界各国にいるという事を知らない人が多いので、私自身が体験したことや学んだことなどを周りに伝えていき、参加者が増えるように頑張っていきたいです。

本プログラムに参加できたことで沖縄の郷土文化についての知識を深めることができ、また、海外の文化を知るきっかけにもなり、視野を広げることができました。本当にありがとうございました。



與那嶺 加奈絵(21)

Kanae Yonamine

沖縄国際大学

私は五年前の高校一年生の時、ウチナージュニアスタディーに参加しました。それが私にとって初めての国際交流で、英語を好きになるキッカケになりました。当時は全く英語で意思を伝えることもできなかったのですが、日本語がわかる友だちに通訳してもらったりして、会話していました。言葉が分からなくても伝わるものはありましたが、ツアーの後、「自分の言葉で気持ちを伝えたい。」という悔しさが残りました。その悔しさから、私は英語を学び、五年たった今、英語も大体分かるようになったし、少しは伝えられるようにもなりました。しかしそれと同時に、五年の間に失ったものもあったことに気付かされました。以前は世界中の家族に会いに行く、留学に行くと、大きな夢を持っていた私でしたが、いつの間にか、「叶うわけない。」と色々なものを諦め、安価ですぐに叶えられそうな夢しか持たなくなっていました。しかし、一人の参加者の行動宣言を聞いて、「なんて私はバカだったんだろう。」と思いました。彼女は、「大学生になったら世界中の県人会を訪れて、旅記を書きたい。それを皆の力を借りて色々な言葉に訳して出版したい。そのお金でUJSのようなプログラムを増やしたり、留学の奨学金にあてたい!」と言いました。心から感動して、「私ももっと大きな夢を持って、それに向かって本気で努力したい!」と思うことができました。

今回のウチナージュニアスタディーはウチナーネットワークが広がったのはもちろん、中高生のパワーに刺激を受け、忘れていた気持ちをたくさん思い出し、そして自分が将来どんな仕事をしたいのかを改めて再確認することができ、大きな成長とやる気を与えてくれました。私は将来、子どもたちに、感動体験を通して、沖縄の文化の継承や国際交流などの企画運営に携わり、沖縄にたくさん恩返しをしていきたいです。本当に、2017年の青年リーダーをさせて下さりありがとうございました。



テカチ アマンダ ルイザ(17)

Takoch Amanda Luiza

アメリカ合衆国

インディアナ沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーツアーは私にとって素晴らしい経験でした。このツアーのおかげで、初めての経験や楽しい経験がたくさんできました。またたくさん友達ができ、世界中の人や沖縄の家族に会えたり、沖縄について学べたり、日本食もたくさん食べることができました。

ツアー初日は学びの多い日でした。10カ国の異なる文化や習慣、食べ物について、また、そこに暮らすウチナーンチュや県人会について学びました。私の県人会は小規模なので、他の県人会の活動について、また影響力の大きさについて聞いて楽しかったです。アイデンティティグラデーションでは、みんな自分自身がどの立場にいると考えているのか、また自分たちのアイデンティティについてどう思っているのかを見ることができたので面白かったです。ウェルカムパーティーの余興は楽しかったです。日本の制服やダイナミック琉球は初めて見ました。余興はすべて素晴らしかったです。初日は、自分自身のアイデンティティについて学んで、参加者と一緒にとっても楽しめました。私の自国紹介のプレゼンテーションは他と比べて短く感じたので、来年の課題として、もっとアメリカや県人会、家族の紹介を増やすなどして内容を膨らませたいと思いました。

2日目もとても充実していました。県庁表敬は厳かで、歓迎されていると感じたし、アメリカ代表ということも痛感しました。ビーチや美ら海水族館はとても楽しかったです。もう少し時間が欲しかったです。3日目はリバートレッキング、BBQ、エイサー練習、ゲーム、食事などエコパークで過ごした時間は最高でした。ただ充実していただけでなく参加者との絆を深めることができました。言葉の壁はあったけど、みんなと友達になれた瞬間だったと思います。

平和祈念資料館、平和の礎、ひめゆり平和祈念資料館、空手会館、沖縄県立博物館、首里城など歴史学習はすごく良かったです。とてもためになり面白くて、みんな沖縄のことをたくさん学んだと思います。特に平和祈念資料館が良かったです。第二次世界大戦が、住民を巻き込むほど沖縄に多大な影響があったなんて知りませんでした。たくさんの方が死んだり、自殺したり、子供が看護師や兵士として働かされたり、戦争が人々にこれほど影響を与えていたなんて思いもよみませんでした。私はアメリカ人なので、とても悲しくなったし申し訳ない気持ちになったけど、でもアメリカ人としてきちんと学べて良かったです。

もちろん他の場所も素晴らしかったです。空手が沖縄発祥だと知らなくて、こんなに型の種類があることも知りませんでした！首里城も晴らしかったです。来年の希望としては、各観光地でもっと見学の時間が欲しいです。特に平和祈念資料館は学ぶことが多いので、もっとゆっくり見学したかったです。

最終日は素晴らしかったです。修了式は多数のメディアがいる中、参加者みんなでステージに上がって、とても重要で幸せな時間を過ごしました。ホームステイの家族も見に来て嬉しかったです。特にさよならパーティーが、このツアーの中で一番の思い出です。参加者と過ごす「最後の時間」なので寂しかったけど、みんなの堂々としたパフォーマンスを見るのはすごく楽しかったです。楽しくて幸せだったけど、最終日と思うと少し寂しくなる瞬間もありました。出会った友達と離れるのは寂しいし、またみんなと集まる可能性は低いかもしれないけど、でもみんなそれぞれの場所で頑張っていると思うと元気が出るし、またフェイスブックやメッセージのやり取りを続けていきたいと思います。みんなのことが家族のように大好きだし、もう、ウチナーンチュであり家族です。

一生このツアーのことは忘れません。初めは日本語が話せないので参加することをためらっていましたが、今は全くそう思いません。次も堂々と参加したいです。このような機会をくださって、本当にありがとうございました。



バットマングリジ ガブリエル(16)

Batmanglidj Gabriel

アメリカ合衆国

コロラド州沖縄県人会

このプログラムを通して、沖縄のルーツについてより理解でき、世界中のみんなと友達になれました。初日の「アイデンティティ・グラデーション」で、少し驚きました。なぜなら、自分は沖縄に住んでいないけど沖縄寄りだったのに対し、沖縄出身者の何名かが海外寄りに立っていたからです。

このツアーを通して一番の思い出にのこったことはつつじエコパークに行ったことです。男子メンバーと仲良くなり、他のみんなともたくさん話せました。特に、のどかさんと1番仲良くなりました。言葉の壁はあったけど、沖縄の踊りや音楽を通してコミュニケーションを図れました。らいきさんとも仲良くなりました。らいきさんがアメリカの音楽が好きということが驚きました。彼は私よりアメリカの音楽を知っていると思います！らいきさんはとても優しい方です。

新しい友達ができたこと以外に、エイサーを学べたことが嬉しかったです。小さい頃からずっと踊ってみたいと思っていました。エイサーのしゅんか先生は優しくて、教えるのが上手でした。しゅんか先生のエイサー愛を感じました。しゅんか先生に教えてもらえて本当に良かったです。首里城見学は本当に面白くて楽しかったです。首里城はいろんな国の影響を受けて作られていると知りませんでした。中国の影響だけだと思っていました。ずっと行きたいと思っていたので行くことが出来て嬉しかったです。

さよならパーティーは、みんなと一緒に居られる最後の時間だったのでほろ苦い気持ちになりました。セレモニーはまるで大好きな演歌のようで、「楽しくて、面白くて、悲しかった」です。私もパフォーマンスができたし、みんなのパフォーマンスも見られて楽しかったです。ブラジルのマリンさんの踊り「あんまー形見ぬ一番着物」が特に好きでした。初めてこの曲を聞きましたが、感動で涙がこぼれました。また、マイケルさんのエイサーも好きでした。ジェイミーさんのダンスも、そしてヒロさんのダンスもかっこよかったです！驚くほど上手でした！みんなとても良かったです。

ウチナージュニアスタディーの関係者、とくにスタッフの皆さんに本当に感謝しています。このツアーで言葉にできないほど楽しい思い出ができました。一生この日を忘れません。

いっぺーにふえーでーびる！



レッドモンド マイケル ジョセフ 三世(16)

Redmond III Michael Joseph

アメリカ合衆国

ワシントン州沖縄県人会

このツアーは私にとって忘れられない一週間でした。たった一週間で新しく出会ったみんなと強い絆を築きながらたくさんの方が学べるなんて思っていませんでした。毎日、沖縄や私たち自身、お互いについて新しいことを学びました。一生忘れられない経験となり、今年のウチナージュニアスタディーに参加できたことは本当に光栄で、幸せなことだったと思います。

始めはあまり馴染めなかったのに、最終的には注目の的になっていたことから振り返ってみると、人間としてだけでなく、ウチナーンチュとして成長したのかな、思います。

ツアー初日、部屋に入ってからしばらく、みんなに見られている気がしていました。自分の席を探してゆっくり歩き回っているとき、みんなに自分の動き一つ一つを見られているようで、やっと席を見つけた時は、なるべくみんなに気づかれないようにひっそりと過ごしていました。これが人生を切り抜く方法だと思っていたし、ツアーの一週間もこのようにして過ごそうと考えていました。しかし、名前が呼ばれて前に来るよう指示され、この計画は無意味になりました。自己紹介の後にはさっさと自分の席に戻ったので、ほとんどの人は私が何と言ったか分からなかったと思います。部屋に戻ってからやっと少し楽になりました。男子5人と友情を育んだこの夜のことは一生忘れないでしょう。最終日には、全参加者と家族になれた気がします。特に私たち男子6人は特別です。“無敵のウチナーンチュブラザー”です。女子の参加者と仲良くなるのは少し大変でした。彼女たちが私の話をしているところを耳にするまではそんなに話せなかったと思います。キャンプファイヤーの日が私の人生を変えました。これまでにないほど積極的（パーティーパーソン）になれたと思います。残りの人生もこんな風に生きていきたいと思いました。この夜はたくさん踊って汗をいたので、これまでにないほどスリムになったと思います。そして、世界一速くコーラを飲む記録も残せました。この夜に、忘れられない、また数え切れないほどたくさんの思い出を作れました。

残りの日々はまたたくまに過ぎ去りました。みんな心から楽しんでいて、たくさん話をして遅くまで起きようと頑張っていました。友情を深める以外には毎日、沖縄に関する新しい知識や文化、そして、ウチナーンチュのアイデンティティーをみんなで育て、共有して、守っていくことを学びました。

ツアーの目的である沖縄についてたくさん学んだけど、忘れられない一番の思い出は、たった一週間で家族のような絆が築けたことだと思います。この世界中でつないだ友情は、すべて沖縄から始まりました。



国場 茶梨沙(18)

Kokuba Chalissa

アメリカ合衆国

サンディエゴ沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーツアーは、私がまだ知らない沖縄についてたくさんのことを教えてくれました。これまで沖縄の歴史、自然、文化についてあまり関心はなかったけど、ツアーを通して、沖縄と日本のハーフである私自身のルーツについて興味を持つことの楽しさを学びました。また、知識だけでなく、特別な思い出や経験、そして私の人生で一生関わっていくであろう素敵な友達を得ることができました。

ウチナージュニアスタディーツアーに応募したのは、「自分自身のルーツについて学ぶ良いきっかけになる」と母が勧めてくれたからでした。あまり興味はなかったけど、長いアメリカの夏休みを家に引きこもって眠って過ごすより、このプログラムに参加する方がいいと思いました。アメリカ代表の参加者に選ばれた後、叔母の家でホームステイする準備をしました。その後のサンディエゴから沖縄への一人旅は、私にとって初めての経験となりました。これまで州から州への旅行はあったけど、1人で日本へ訪れたことはなかったの、知らない空港で搭乗手続きをしたり、時間、搭乗口の場所などを人に聞いたり、乗り越えななきゃいけない小さな不安がいっぱいありました。

また、リバートレッキングの経験ができました。サンディエゴにはリバートレッキングはありません。腰まで水に浸かることになる、と初めて聞いた時は、水に濡れないチームに入ろうと思いました。でも、たとえ濡れることに抵抗があっても、初めての経験ができるチームに入ろうと考え直しました。正しい選択をしたことで、全行程の中でも、リバートレッキングが友達と楽しく過ごした1番の思い出となりました。最終的にずぶ濡れになったけど、クモや虫、深みに飛び込んだこと、みんなで川を泳いだこと、全部忘れません。

博物館やひめゆり平和祈念資料館、平和の礎を訪れたことで、沖縄や人々についてたくさんのことを学びました。平和祈念資料館を訪れるまでは、沖縄戦について深く知りませんでした。ひめゆり平和祈念資料館を訪れるまでは、当時沖縄全体が戦地だったとも思いませんでした。私が歩いた道にも、たくさん死体があったのかと思うとショックでした。ひめゆり平和祈念資料館でのワークショップでグループのみんなと平和について考えた時、世界中が平和になるべきだと強く願いました。それぞれの考えを交換し共有できたことは、本当に良かったと思います。

最後に、一週間の活動を通して、世界中の参加者と友情の絆を築くことができました。言葉の壁を乗り越えることは不可能だと思っていたけど、参加者だけでなく、スタッフや眩しい友情を見せてくれた過去参加者（ボランティア）のみんなと素敵な時間を過ごすことができました。連絡を取り続け、いつかまた沖縄に戻って、みんなと再会したいです！

このツアーは一週間という短い時間で、私のルーツを明らかにしてくれ、沖縄の文化を世界中に広めたいほど、たくさん教えてくれました。サンディエゴ県人会に戻ったら、ここでの経験をみんなに伝えたいです。大学では国際関係を専攻して、沖縄に関する知識を県人会のファミリーだけでなく、アメリカをはじめ世界中の人々に広めていけるような手助けをしたいです。



カイジャク 浦崎 オーシャン(16)

Kyjac-Urasaki Ocean

カナダ

レスブリッジ沖繩文化協会

このツアーを通して、たくさんのことを学びました。また、エイサー、リバートレッキング、伝統工芸体験などの体験というのは、このツアーに参加しなければ得られない経験ができました。言葉の壁もあって、友達ができるかどうか初めはとても緊張していました。でも数時間後には友達ことができました。初めは英語が話せるメンバーと仲良くなり、次の日には、沖縄、アメリカ、ブラジル、韓国、メキシコ、フィリピンの参加者と仲良くなりました。

私が思っていた以上にあっという間に一週間が過ぎていきました。沖縄のヘリテージ（遺産）について参加者のみんなと学べて嬉しかったです。ひめゆり平和祈念資料館で学んだことは驚きでした。私と同世代の学生が看護師として戦争へ行っていたなんて想像もできませんでした。ひめゆり平和祈念資料館や平和祈念資料館へ行ったことで、今自分が生きていることに感謝することができたと思います。戦争経験者として辛い過去を背負いながらも毎日生きている方々を、心から尊敬します。

今生きていること、恐れることなく自由に世界中を旅行できること、私は本当に幸運だと思います。私は旅行が好きなので、この一週間でたくさんの友達と過ごせて嬉しかったです。私たちは島のあちこちに行きましたが、特にビーチがとても楽しかったです。すべての思い出を、心の中で一生大切にしていきたいです。キャンプファイヤーも思い出いっぱいです。カナダで抱えている問題を全て忘れさせてしまうほどでした。心から楽しかったです。みんなずっと笑っていて、みんなと過ごした時間、みんなの笑顔を生忘れません。

このツアーでの経験を通して、沖縄の持つ文化や歴史についてもっと学びたいと思いました。特に言葉を学びたいと思いました。ここで新しく出会ったみんなともっと簡単にコミュニケーションが取れるようになりたいです。前回、10月に沖縄に来た時は、こんなに早くまた沖縄に戻ってくる機会はないと思っていたし、住んでみたいとも思いませんでした。しかし1週間過ぎて、1~2年のうちに勉強のためにまた戻ってきたいと思いました。みんなもう家族のような関係なので、数年に一度しか会えないのは悲しいし、またみんなに会いたいです。

みんなに出会えて、一緒に沖縄について学べたこと、ここでの経験に心から感謝します。学ぶことは大好きだけど、同時にこんなに楽しめるとは思っていませんでした。最高の思い出をありがとうございました。沖縄に関することについて学び続け、そして周りの人にも教えていきたいです。



岡山 アグスティナ アイリン(18)

Okayama Agustina Ailin

アルゼンチン共和国

在亜沖縄県人連合会

このツアーでは、たくさん学び、いろんなことを発見し、私のアイデンティティをより尊重するようになりました。私のおじー・おばーについて、彼らの文化としての歴史をもっと知りたいと強く気持ちを動かされました。また、今のおじー・おばーとよりコミュニケーションを取るため、彼らに今までの話を聞くために日本語を勉強したいと思いました。こうしてだんだん彼らの歴史を学んでいき、将来それを私の国の新しい世代に伝えていけるからです。でもそのためにはまだまだやらなければならないことがたくさんあり、それを学ぶためにできるかぎりの努力をするつもりです。

このツアーはさまざまな感情を見つけた一週間になりました。戦争に関するビデオを観たときは泣きたくなくなったし、でもおじー・おばーがどうやって闘ってきたのかを聞くと彼らのことを誇らしく思えました。違う国へ移民しなければならなかったとき、彼らは大変つらい思いをしながらも、苦悩のその先へ、前に進み続け、こうして我々はウチナンチュであると言える誇りに繋がったのだと思います。

また私のアイデンティティを決めていくための手助けにもなりました。私がどこから来たのか、どこへ行くのか。ツアーの前は、私はウチナンチュであるとはっきり思っていました。アクティビティの半分以上を過ぎた頃、私の60%はウチナンチュで、40%はアルゼンチン人であるとだんだん考え直すようになりました。「なぜだと思えますか？」なぜなら完璧なウチナンチュになるには、まず私は言葉が分からないし、もっと私の家系の祖先のことを知らなければならぬからです。また大部分にアルゼンチンが占めるのは私が向こうで生まれ、向こうの社会の中で育ち、私の家族の多くがアルゼンチンにいることと、そして私の母国語がスペイン語だからです。

また一方で、私がとても好きだったのはみんなと一緒にエイサーを学んだことです。きっと特別な体験で、一生忘れられないモノになると思います。みんな最終日にパレットくもじ前広場で踊ることに緊張しているのが見えましたが、実際はみんなが楽しく歌いながら、ヘイシをしながら、ウチナンチュの気持ちを伝えながら、とても感動的なモノになりました。また同時に、私たちが行ってきた練習や上手くなるためのそれぞれの努力が、言葉で表すことのできないみんなの気持ちとして一つにまとまっていたことを改めて思い出させてくれました。

ウチナージュニアスタディがこれからも続いていき、そのたびにより一層素敵なものになっていってほしいなと思います。私の小さいとこたち（4歳と8歳）もこの機会があれば、見方を変えてくれる素晴らしいこの交流にぜひ参加してほしいです。

33名の参加者全員と一緒にいることはもうないかもしれないと考えるととても悲しくなりますが、でもいつかみんなまた戻ってくると信じています。これはジュニアツアーの終わりではなく、みんなで一つの新たな目標を掲げて、それぞれが抱えている共通の夢、“沖縄と世界の架け橋になろう”という夢をもとに、新しいステージの始まりになるのです。

個人的には、アルゼンチンに住む私と同年代の若者に、私の体験を伝えていきたいです。自分のアイデンティティを知ることが大切であること、ウチナンチュであることを誇りに思うのは素敵なことだということ、もっとおじー・おばーを尊重すべきだということ、彼らのおかげで今私たちはここにいて、私たちが持つさまざまな機会も彼らがいたからこそ今に繋がっているということ伝えていきたいです。

この交流プログラムを支えてくれたすべての方々へ感謝しています。本当に素敵な交流で、いつか私もアルゼンチンで文化などを教えながらこのように交流を促進できたらいいなと思います。

これらの生き生きとした体験を私のこころのなかに刻み、ずっと忘れません！



花城 ビクトリア アイレン(19)

Hanashiro Victoria Aylen

アルゼンチン共和国

在亜沖縄県人連合会

私は2回ウチナージュニアスタディーに応募し、2回のニーセーターツアーに参加したおかげで、ツアーの国際交流で何をされるのか大体わかっているつもりでいました。でも今となっては、私の期待は最初から高かったにもかかわらず、それよりもはるかに上回っていたと言えます。

沖繩に着く前はとても緊張していて、私のルーツである国に行くことも一つの理由ではありましたが、でも何よりも、初めて言語が全く異なる場所に行くことにとても緊張していました。今まで行った他の国では、いつも大体真似できる言語が使われていたので、いくつかの日本語の単語は理解できるにも関わらず、やはり日本語は知らないと言えないのが残念なくらい、私にとって日本語は全く別の言語でした。

でも空港に着いて数分後、私のホームステイの方が来てからとても温かく迎え入れてくれたことがとても感動的でした。そして一度交流を始めると、「沖繩の人たちすべてがこのような感じなんだ」と気付きました。

アクティビティは素晴らしいものばかりで、人々も明るく親切で、彼らと一緒に興味や体験を共にしました。彼らとでなければ、これらの思い出は全く別のものになっていたと思います。つまり誰と一緒に過ごしたかで、またいいエネルギーや姿勢で行なわなければ、物事は違うものになってくるということです。だからスタッフの他に、ボランティアの方々は参加者を元気づけるために必要不可欠だったのだと思います。でも私はボランティアの方々の中で誰とも話す機会がなく、名前も分からないので、ボランティアの方々ももっと一緒にいた方がよかったかもしれません。

アクティビティに関しては、全部が本当に大好きなアクティビティでした。暑い中でも楽しみ方を見つけ、できる限り有効に過ごしました。

ご飯はとても美味しくて豊富でした。またツアー中とった水分の量も十分でした。

私がとても気に入ったアクティビティは首里城見学、ボランティアの方々が企画してくれたゲームや那覇でポイントを見つけて写真を撮るミッション、伝統工芸体験、ひめゆり平和祈念資料館見学、沖繩県立博物館見学、そしてエイサー練習です。何も改善するところが思いつかないくらい、すべて完璧以上のものでした。

こんなに大きなプロジェクトを企画するのは難しいと思いますが、それを行なってくれたスタッフの方々は、すべて計画通りに行けるよう考慮しながら進めてくれて、とても感謝しています。根気と心遣いをありがとうございました！

言葉で表しきれないほどの思い出を持ってアルゼンチンに帰ります。この交流プログラムは私にとっては高いですが（そう感じるのは過ぎ去るのが早すぎるからかもしれません）でもいつかまたこの交流のために戻ってくることを願っています。できる限り自分の言葉をもっと学べるよう頑張ります。本当にすべて、ありがとうございました。



仲宗根 坂東 マリア フェルナンダ(15)

Nakasone Bando Maria Fernanda

メキシコ合衆国

メキシコ沖縄県人会

みなさんこんにちは、私はマリアです。でもきっとアツコの呼び名のほうで知られていると思います。

私はこの作文を夜中の12時に書いていますが、こんな時間になるまで、ウチナージュニアスターディーについて自分の気持ちをどう表現したらいいのかわかりませんでした。

ツアーに来る前のメキシコでは、どうやって友達をつくれるか、アクティビティはどういったものなのかについて、とっても不安でした。スケジュールをみると、とても早起きしなければならなかったし、それもまた心配になったからです。

ツアーの初日、到着して覚えているのはアケミやビッキーに会い、そのあとガブリエルさんと少し会話し始めたことです。そのあと集会の広間に行き、チャリサとも話しました。そこがこのツアーで楽しく過ごしていけると気付いた瞬間でした。最初からもうすでに友達ができただからです。もうこれ以上なにを書けばいいのかほんとうにわかりません。このツアーは私の人生を完全に変えたと言いきれます。それをいうには早すぎるほど私はまだ子供だとわかっていますが、でも真剣です。

このツアーでは一生続きそうな友情を築くことができ、この人々に出会えたことをとても誇らしく思います。世界中に私のファミリーがいると自慢できます。私が一番小さいので、架空の設定で私は娘で、でも私にとってみんなは私の姉妹です。

私がどれだけ他の参加者とここで一緒に居続けたいのか知らないと思います。残念なことにそれはできないので、そう遠くない将来にいつかそれぞれの国の一人一人全員を訪ねたいと思います。英語を完璧に話せるようになり、日本語も完璧に、そしてポルトガル語や韓国語も勉強したいです。異なる言語で自分を表現する力を学びたいです。

最初は泣くとは思っていませんでしたが、でも少しずつ私たちはよく集まるようになり、また写真やビデオをみるたびに涙をこらえることができなくなりました。本当に、絶対に忘れたくないジュニアでの思い出をそれほどたくさん持っています。ずっと私の心の中に全部残っていてほしいです。

このツアーは心のなかに刻まれるほど私の人生の中で素晴らしい思い出の一つになりました。



比嘉 千智(18)

Higa Chisato

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

今、ウチナージュニアスタディーツアーが始まった日を思い出すと、まるで昨日のように思えます。私は自分の移住地の歴史は知っているけれど、他の国の移住は何も分からない、沖縄の事すらよく知らないまま、ウチナージュニアスタディーに参加しました。一度、自分のルーツの事を勉強したくて、他の国の人達とつながりがもちたくて、このツアーに応募しました。ずっとこの日が来るのをとても楽しみにしていました。このツアーに参加したおかげで私は新しい自分を見つけられた気がします。沖縄の事を色々学ぶにつれ、私はこの島の事が大好きになり、ウチナーンチュである事を誇りに思うようになりました。沖縄の皆はずごく温かくて何よりも「いちやばちよーでー」という精神をもっているのがすぐに伝わりました。また、皆が自国紹介をし、それぞれが積極的に参加している県人会の活動の話を聞いて私は世界にはこんなに沖縄の文化を大切に、愛している人がたくさんいる事におどろき、感動しました。県内の皆さんと海外の皆さんと平和について考える機会がありました。意見やアイデアを交換し合いながら、これから私達は何ができるのか、皆が一つになったら争いは無くなるという点について深く話し合う事ができました。戦争の話も、聞く事があり、戦争はどれだけ残酷な争いか、二度と起きてはならない事を思いしらされました。

今、私には大きな目標があります。それは、沖縄と世界をつなげる事ができる人材になる事です。そのためには、まず自分が強くならなきゃいけません。自分の県人会の活動もサポートし、「WYUA」やウチナーネットワークを広める行事にどんどん参加したいです。次の世代に沖縄の事をもっと知ってもらい、こういった素晴らしい事業がある事を教えていきたいです。この事業では勉強だけでなく、キャンプファイヤーや観光などをしました。どんどん皆と交流していく中、私達はすっかり仲良くなりました。言語や生まれ育った環境は皆ちがうけれど、ウチナーンチュという共通点で私達は家族のようになれました。このツアーで築きあげた絆は一生たもっていきたいです。そして、将来ウチナーネットワークをまた皆で広めて沖縄で会えることを心から願っています。このウチナージュニアスタディーツアーは私の心に印(しるし)をつけました。本当に参加してよかったです。

最後に皆、「にふえーでーびる！ずっとマブダチね！」



長嶺 モニカ 恵(17)

Nagamine Monica Megumi

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーの研修に応募したことが昨日みたい感じます。あっという間に研修が終わってしまうので、ちょっと悲しいです。

7月30日は私と千智の誕生日でした。私は、最高のプレゼントをもらいました。それは、みんなと出会って、友達になれたことと、ずっと心に残る思い出です。

最初は、ちょっと恥ずかしかったけど、だんだんみんなが声をかけてくれたのでとてもよかったです。

ウェルカムパーティーで派遣教師やボリビアに来てた人たちに会えたのでとても嬉しかったです。

私はAグループのメンバーでした。ビッキー・しょうた・しょうご・るる・ありさが私のグループでした。

★しょうたはとても面白いリーダーでした。Aチームのリーダーで良かったと思います。

★ビッキーは、いつも優しく、いつも笑顔でした。ビッキーととても仲良くなれて良かったです。

★しょうごは、かわいくていつも笑顔でした。

★るるは、ドイツ語を教えてくれたけど、難しくて忘れちゃった。

★ありさはとても優しく、いつも笑ってました。

私は、こんな友達ができるとうれしいです。

ほかにも友達ができました。みんな優しく、みんないつも笑顔で、みんなのことを家族のように思いました。

エコパークでも初めてのエイサー練習をやりました。

しゅんかさんはとてもかわいくて、エイサーを踊る姿はとてもカッコ良かったです。

ミルクムナリと三線の花の曲を踊りました。

私は三線の花の曲をとても好きになりました。

みんなと川にいったことは忘れません。とても楽しい思い出に残りました。

ペルーのアルベルト城間さんからお話を聞きました。歌うのがとても上手ですごかったです。でもBuenas nochesの歌を歌った時はとても眠くなりました。

さよならパーティーは、とても楽しかったけど、みんなとの最後のプログラムだったので、とても悲しかったです。

みんな、今みんな家族みたいでうれしいです。

みんなのこと、だいだいだ〜いすきになりました。



山内 マリン(17)

Yamauchi Maryn

ブラジル連邦共和国

カンポグランデ沖縄県人会

沖縄に来て幸せでした。私の叔父叔母さんが沖縄生まれで、私の家族と私も日本生まれです。そして家族全員私達の起源は誇りである。家で叔父叔母さんの会話はうちなーぐちだけで、家の食事ほとんど日本料理です。小さい頃からブラジルの文化と関わりはなく、沖縄の歴史も分からなかった。このウチナージュニアスタディを参加することが出来てとても素晴らしい体験が出来た。

最初は日本語があまり喋れなくて緊張していましたが、全員が親切に気を効かせてくれ少しずつ参加者とのコミュニケーションができました。スタッフも親切で対応も良く、また全員の協力のおかげでこの一週間を忘れられない素晴らしい出来事にしてくれた事に感謝したい。

初日と2日目まで参加者の国のことを学ぶことができた、また他国の沖縄の県人会の活動も見ることができて各国で沖縄の文化を共有していることを私にとって幸せに思いました。キャンプファイヤーも楽しかったし、ゲームあったからもっと自分のチームの参加者との交流ができ仲良くなれた。川のトレッキングも忘れられない体験でしたし、初めての体験でした、コースを皆と一緒に達成まで難しかったけどとても良かった。ブラジルの海より沖縄の方がキレイです。海はそんなに好きじゃないけれどもビーチアクティビティで一番友達ができた。博物館美術館も興味深く、沖縄の戦争や歴史を学んで、その頃の沖縄の人が苦勞したことを学びました。特にひめゆり学徒のアニメを見て今も思い出したりします。絶対忘れられないです。沖縄から学んだことは戦争をするより平和が大事という事。国際通りも楽しかったし、マチグワー散策のグループでミッションをクリアすることでチームとの深い絆ができました。最終日が私に大きな影響を与え、最後のワークショップは皆と一緒に劇をやって楽しかった。さよならパーティーも全員にとって感動的でした。友達のスピーチも感動しました。皆の余興が楽しかった、私も緊張したけど皆に褒められて幸せでした。エイサー演舞がその日の最も重要なプログラムでした。エイサー演舞後にパレットくもじ前広場で、りおがしゅんかさんに感謝の言葉を伝えて、それで何年か振りに感動でいっぱい泣きました。一週間だけの期間で成功したことが素晴らしいと思いました。家族のような関係になりました。現在でも皆のこと思い出すと寂しいし、朝起きてから皆と一緒に活動がないことが不思議です。今回のプログラムが素晴らしくていろんな事で夢が叶った。思ったツアーよりも良かったツアーだった。今回のツアーでの思い出は絶対忘れません。皆が帰国する前に8日に再び会えることを考えるだけで泣きそうになる。ブラジルの友達にツアーのことを共有します。またカンポグランデの県人会の参加にもモチベーションにつながると思います。人生の中で参加してきたプログラムで今回が一番良かったし、誰にでも進められます。今回の機会を与えてもらってとても感謝し、また沖縄にいつか戻りたいです。



知花 アリネ アケミ(17)

Chibana Aline Akemi

ブラジル連邦共和国

ブラジル沖縄県人会

子ども頃の夢が叶いました。沖縄に来ることが出来た事、私の祖先、私のルーツである。今回の旅が私にとって言葉に表現できないくらいの出来事だった。この一週間はとても素晴らしく、学ぶことも多く、参加者達は私にとって特別な人々になっていて、一緒にいろんな活動もやったし、沖縄の歴史を学ぶために博物館美術館、美ら海水族館とイルカショー、首里城と沖縄ないろんなところで見学しました。その中で感動的だったのが見学したひめゆり平和祈念資料館で戦争で亡くなった親戚の写真と歴史を見つけることが感動しました。ツアーの中で私にとって印象的だったことは、一週間で一人一人の沖縄の繋がりがあって一人一人の見方が変わった。最終日にエイサー演舞を披露する為にエイサーのワークショップもあり、毎回の練習が楽しかったしエイサー演舞本番も感動的でした。エイサーは私の情熱で皆と一緒に楽器を弾くことが私の喜びでした。参加者とは話す言語が違い、コミュニケーションが難しい部分もありました、でも今回学んだことがどこから来たのかと何語喋っても関係なく、私達はウチナーンチュだから皆と結んで強化する事が大切なのだと思いました。

また将来に国際交流を通して沖縄の歴史をもっと勉強しにまた来たいです。私の希望はこういった素晴らしい経験を多くのブラジルの人々に共有して、次世代の若者達にも興味を持ってもらい未来の若者達にも私みたいな体験を与えられるようにしていきたいです。沖縄の文化を終わらないように守りたいです。

今回全ての事に感謝し、人々と過ごした時間を心の奥にずっと保管し、またいつか再び会える事が出来たら今回のことを振り返り新しいアイデアを交換したいです。

ツアーの一週間ありがとうございました。



ムラタ ウエズ アリサ ステファニ(17)

Murata Uezu Arisa Stefany

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

7月28日、アツコやアグス、ビッキー、アケミ、マリンと一緒に沖縄に到着し、ロビーに出ると家族やスタッフの方々が温かく出迎えてくれました。写真を撮り、保険などツアー内容の説明を受けたあとはゆっくり休みました。

ツアー初日、朝はあまり気分がすぐれず、またパスポートを忘れてしまいました。プレゼンテーションの間とても緊張し、体調も少し悪くなってしまったので一日休むことになりました。しばらくして病院に行き、身体を休めたことと薬のおかげで体調も良くなり、ウェルカムパーティーの後半にはまた会場に戻ることができました。

次の日からは様々な博物館への見学からエイサー講習まで、学びや遊びの日々でした。すべてがとても楽しかったです。

－平和祈念資料館見学中は、証言を読みながら泣き、まためぐみの家族の名前が平和の礎に刻まれているのを発見し感動しました。

－沖縄そばがとても美味しかったです。唐辛子をかけすぎてしまい、スープがとても辛くなってしまいました。

－ひめゆり平和祈念資料館では胸が痛くなるような思いでした。この少女たちのことを私は知りませんが、本当にすごいなと思います。

－しゅんかさんのレッスンはとても楽しく、分かりやすかったです。また、しゅんかさんと私のホームステイと一緒に勉強したことのある仲だという繋がりを発見しました。

－川歩きはとても疲れましたが、同時にとても楽しかったです。

－（つつじエコパーク）宿泊施設では、夜遅くまで起き、らいきさんが部屋のちかくを通った時には、行ってしまいうまでみんなで寝たふりをしていました。

－遅くまで起きた夜は、星々がとてもきれいに見え、毎日は見られない眺めでした。また、皆とラインやフェイスブック、インスタグラムでの連絡先を交換しました。

このたった7日間で沖縄について数多くの事を学び、異なる国々の人たちと知り合い、文化を知り、また今まで知らなかった自分自身を発見することもできました。今では、違う視点から世界を見ることができるようになり、ただ世界のウチナーンチュ大会での思い出が楽しくて沖縄に帰りがっていた6歳の時の女の子は、今は違う理由で沖縄に戻りたいと願っています。今はより勉強するために、より自分のルーツを知るために、戻りたいと思うようになったのです。私の曾祖母の家がまだ残っているので、彼女を知り、家族のだれかが戦争で亡くなったのか、私の家族のことをもっと知りたいです。

いつの日か戻ってくる機会があることを願い、その時が来たらもっと自分のことをよく知り、沖縄についてもっと学んでいきたいです。

いつか戻るために可能なことをして、日本語も学んでいこうと思います。またペルーに着いたら、日系ウチナーンチュの方々はこのツアーのことを話していこうと思います。“ゆいまーる”で私のできる限りのことをしていき、県人会などをもっと盛り上げていきたいなと思います。ウチナージュニアスタディーに応募したのは私の今までの中でより良い選択でした。友達と一緒に過ごした時間、沖縄のすべてが恋しくなると思います。でもすべてを心に刻んで一緒に持っていくます。

短い時間でしたが、この経験や思い出や新しい友情を

いっぱいにふえーでーびる、ありがとうございます、thank you very much、muchas gracias、kansamida、marami alama po.



我如古 丈浩(19)

Ganeko Takehiro

大韓民国

韓国沖縄県人会

ウェルカムパーティーのことが昨日のように感じられるのにもう最後の振り返りを書いているのが信じられない。

最初は、皆初対面で言葉も通じなくて帰りたい気持ちが大きかった。しかし、自国紹介のプレゼンを聞いて少しずつ興味が湧いてきた。

初日には本当に皆気まずく一日中緊張していた。そのためか時間の流れも遅く感じた。友だち（参加者）たちが声かけてきたが、コミュニケーションがうまく取れず、すぐ言葉がなくなってしまう。それでも続けて声かけてくれて仲良くなれたと思う。

今思えば、言葉が通じない私と仲良くなれるため頑張ってくれた友だちにすごく感謝している。きっと「たくさん勇気が必要だろう」と思うからありがとう。おかげで2日目からは少しずつ話しながら打ち解けるようになった。言葉が通じなくてもだんだんと心が通じていくのが不思議で楽しく幸せな時間だったと思う。一緒に海に行って皆で本当に楽しく遊びながら親しくなれたと思う。海で泳いだり遊んだりして距離が縮まった。その後、美ら海水族館、イルカショー、エイサー練習、自国紹介まで、あっという間に終わった感じだった。

2日目の日程の中で一番記憶に残っているのは、エイサーの練習だ。エイサーは、生まれて初めて経験する文化だった。韓国にいる間はエイサーの存在すら知らなくてここに来て初めてエイサーというものを習うことができた。初めて習うことだったが、とても楽しかった。こうやって2日目は瞬く間に過ぎてしまった。

3日目からは一分一秒がとても大事に思われた。川のトレッキングでは、ダイビングもして楽しかった。水遊びをしてお腹がすいた時に食べる肉は、ほっぺたが落ちるようだった。BBQを終えてグループ対抗ゲームをした。グループ対抗ゲームは、ボランティアの先輩たちが準備してくれたと聞いた。すべてのゲームに皆で参加できてとても良かった。私が属しているEチームが優勝したが、勝ち負けに関係なく皆楽しめたと思う。最後には賞品としてもらったお菓子を皆で分けて食べた。その後キャンプファイヤーをしたが、そのキャンプファイヤーは素敵だった。初日に覚えたダンスを踊ったりしてとても楽しかった。その後は就寝時間だったが、友だちと遅くまで話した。言葉が通じなく言語は違えどお互い楽しくおしゃべりができたのは本当に不思議でおもしろい経験だった。むしろ時間が足りないくらいだった。こうやって楽しかった3日目が終わった。

以降の日程は、とても時間が早く流れる気がした。ひめゆり平和祈念資料館を見学し、平和の礎ではおばあさんのお父さんの名前も見つけ、空手体験、そしてエイサー練習までとてもおもしろい経験だった。そして5日目首里城見学し国際通りを回ったらもう6日目になっていた。

その時から、私たちがそれぞれの家に帰る時間は残りわずかだということが実感できた。そして最終日の修了式。この日には多くの友だちの涙を見た。その多くの友だちがどれだけ私たちの絆を大切に思っているのかが分かった。私も色んな感情が胸に迫った。多くの感動を受け、「もっと一緒にいたい、別れたくない」と、そして必ず再び会えるように自分自身をもっと成長させようと思った。

このように一週間という時間があっという間に過ぎてしまった。このツアーは、私の人生でかけがえのない大切なものとなった。最初は軽い気持ちで参加したが、修了式の時は誰よりも真剣に皆に感謝する気持ちを持つようになった。このツアーは決して軽いものではないことが体中にしみわたった。本当に様々なことを身をもって体験させて感じさせたツアーだった。

「世界の平和」「世界を舞台に活躍する私」。韓国でもたくさん考え話し合ってみたことだったが、直に10カ国の友だちと過ごし平和についても話し合っ韓国だけの狭い視野から少しは抜けて世界へ一歩踏み出した感じがした。

このようなプログラムを企画し進めてくださったすべての方々に感謝し、このプログラムに参加した友だちにも本当にありがとうと伝えたい。



カシピット ジェイミー(17)

Casipit Jamiee

フィリピン共和国

フィリピン沖縄県人会

7月30日(日)はウチナージュニアスタディーツアー2017の初日でした。私は、県内・海外参加者に混じって部屋に入りました。私がたった1人のフィリピンからの参加者で、場違いに感じました。すると、誰かが肩をたたいたので嬉しくて振り返ると、それはスタッフで、私の荷物がまだ届いていないと伝えられました。しばらくして、私のホストファミリーが荷物の問題について直接説明してくれました。この時、すごく不安を感じたと同時に、恥ずかしくなりました。ホストファミリーにもスタッフのみなさんに迷惑をかけたくなかったのです。何名かの参加者が状況を耳にしていたらしく、声をかけ、部屋に来るよう案内してくれました。最初は何を伝えようとしているのか分からなかったけど、彼らは笑顔でジェスチャーを交えて話してくれました。笑顔ひとつで言葉の壁なんて関係ない、というのは本当だと思いました。この出来事が、私の言葉の壁の不安を振り払ってくれました。「こんな素敵なメンバーが周りにいるのなら、きっと大丈夫だ」と思い、もう安心だ、と感じることができました。

ワークショップの間、私たちグループはとても有意義な話し合いができました。コミュニケーションを図る難しさは否定できませんが、サンディエゴから参加した茶梨沙が、日本語から英語に通訳してくれ、インディアナ州から参加したアマンドが、英語からスペイン語に通訳してくれたおかげで、みんな発言できたと思います。それぞれの思いを交換することは、異なる視点で状況を見るうえで有効だったと感じました。特に、ひめゆりでのワークショップが一番意味のある話し合いだったと思います。私たちは、歴史から何を学び世界平和を築くために何ができるか考える時間が与えられ、また、その方法について考えさせられました。難しい問題なので、私たちの出した答えが、たとえ小さかろうが大きかろうが関係ないと気づきました。平和になるためのステップとして、政治家に依頼する方法や、生存者が教えてくれたように、命を大切にすることも選択できます。このように、平和を築く方法はたくさんありますが、最も大切なことは「今行動すること」だと思います。何事においても、どこかで始めることが大切でしょう。

6日目、行動計画についてスピーチを書くように言われました。しかし、実際に達成できるかどうか確かではなかったので難しかったです。「その道に向かって大きな一歩を踏み出そうとしている限り、小さな一歩は難しくない」、私は県人会に参加して言葉を学びたい、と思いました。そして、「私は日本人だろうか」と自分に問いながらスピーチを書くことにしました。みんなからこの質問をされる時、私はいつも「少し」と答えます。しかし、次誰かに聞かれたときは、私は「ウチナーンチュ」と答えると思います。なぜなら、今なら違いが分かるからです。確かに、日本人と答えるのは簡単だけど、私は時間をかけてでも、一生懸命ウチナーンチュのアイデンティティについて共有したいです。私は1/8だけウチナーンチュの血ですが、この経験を通して同じウチナーンチュとして接してもらえました。受け入れてもらえ、みんなとつながっている気がしました。エイサーパフォーマンスの際に特にそのことを実感しました。私だけでなく、参加者や見に来てくれた観客にとっても感動的な一面でした。エイサーの先生は、「ただ踊るのではなく動作1つ1つを感じるように！」と指導してくれました。音楽に合わせて自分の体が動くだけでなく心もシンクロしているようでした。みんなと一緒に踊って一つになれたように感じました。フィリピンに住むウチナーンチュの間で、沖縄の文化やヘリテージ(遺産)を守り、良い関係をお互いで追及し強く安定した基盤を築くことをビジョン・使命とするフィリピン沖縄県人会に参加することで、この気持ちを忘れずにいきたいです。

異なる国々から築いた新たな友情は、多様性の中で団結することが可能であるとういことを証明してくれました。私はたった7日間で実感できました。私たちは遠く離れているかもしれませんが、いつもお互いに自分の道を見つけていけると信じています。“私たちは兄弟(姉妹)だから”沖縄という“帰る場所”があることを一生忘れません。



親川 愛(24)

Oyakawa Ai

カナダ

トロント球陽会

過去の歴史、起源、文化を知らない人びとは、根のない木のようなもの。(マーカス・ガーベイ)

ウチナージュニアスタディー2017は、沖縄の歴史、起源、文化といった豊富な知識を含む学びの多いものでした。このツアーを通して、参加者である私たちはみんな、それぞれの木の根を育て始めたと思います。

しかしながら、もしその根が深く育たず土の中に浅くあるだけなら…それは枯れてしまうでしょう。だから育て続け、強く育つよう根を深く張らなければいけないのではないのでしょうか。

8年前の2009年、ジュニアスタディーツアーに参加するため私は初めて沖縄を訪れました。この時に初めて、沖縄のヘリテージ（遺産）に夢中になりました。そしてマーカスの言葉通り、私の中にある木が芽生えました。

しかし、学校や仕事が忙しくなり、その木の根を積極的に育て続けることや、沖縄が持つヘリテージ（遺産）について知識を増やすことができず8年が過ぎました。あの時生まれたはずの小さな木は根を張ることなく、日に日に少しずつ枯れていきました。

今年、沖縄に再び戻ることができ、忘れてしまった知識すべてを再び学ぶことができたことは、私の心の中で一生色あせることのない宝物となりました。どんなに日々の生活が忙しくても、そのせいでこの出来事を後回しに考えてしまう時があったとしても、本当の意味で沖縄のルーツを守り、維持することの大切さに気付くことができました。沖縄のアイデンティティへの単純な興味ではなく、もっと沖縄のアイデンティティを知る必要があると理解することができたと思います。

ジュニアスタディーツアー2009に参加したころの私が過ごした時間は「もったいない」と感じました。

だからこそ今年のツアー参加者みんなに、「どんなに難しくても沖縄のヘリテージ（遺産）を守り育ててほしい、そのために、より精一杯努力し続けてほしい」と伝えたいです。私も今度こそそうしたいです！

ウチナーグチや沖縄の文化が、沖縄だけでなく世界中で蘇ることを楽しみにしています。きっと、私たち一人一人の力によって可能となるでしょう！

7月31日(月) 沖縄テレビ OTVニュース 11:48～放送



8月7日(月) 琉球放送(RBC) ザ・ニュース 特集 18:48～放送



8月1日(火) 沖縄タイムス 社会面 掲載

**県系子弟ら来沖
中高生と交流へ**
5日まで各地巡る

海外県系人の子弟が県内の中高生らと交流し、沖縄の歴史や文化を学ぶ県事業「ウチナージュニアスタディー」の歓迎セレモニーが31日、県庁であった。写真。海外9カ国から16人、県内から17人が参加。5日まで県内各地を巡り、移民や



沖縄戦などの歴史を学ぶワールドワークや、マチグ

ワ 散策で交流を深める。ボリビアから参加した3世の比嘉千智さん(18)は「世界中のウチナーンチュと友達になり、沖縄と海外の懸け橋になりたい」とあいさつ。

向陽高校3年の大城里緒さん(18)は「同じルーツを持つ同世代と交流することで、改めて沖縄の魅力を探りたい」と話した。

8月6日(日) 琉球新報 社会面 掲載



1万人のエイサー踊り隊
前夜祭

若者県系人 迫力の演舞

1万人のエイサー踊り隊の前夜祭が5日、那覇市で開かれ、海外移民者の子弟と県内の若者が交流しながら歴史や文化を学ぶ「ウチナージュニアスタディー」の参加者33人もエイサーを披露した。世界のウチナーンチュと一緒にした迫力ある演舞に、会場は一体となって盛り上がった。

プログラムは7月30日〜8月5日に実施され、北米や中南米など9カ国から16人、県内から17人が参加。「琉球国際太鼓」の指導の下、期間中は毎日エイサーを練習した。5日、パレットくもじ前には、親族や観光客が詰めかけた。ジュニアスタディーの参加者は、当初緊張した表情だったが、手拍子や指笛を受け次第に笑顔が出るように。「ミルクムナリ」、「三線の花」の2曲を演じると、抱き合って涙を流した。

向陽高校3年の大城里緒さん(18)は「1週間で覚えるのは大変だったが、言葉が分からない国の子たちともエイサーのおかげで仲良くなれた」と涙を拭いた。

エイサー歴8年というアルゼンチンの岡山・アグスティナ・アイリンさん(18)は、「沖縄で踊りたいと思っていた。夢みたいだ」と感極まった様子だった。

エイサーを披露する「ウチナージュニアスタディー」の参加者ら(5日後、那覇市)

9月24日(日) 沖縄タイムス 全面広告 / 琉球新報 全面広告 掲載

将来像

4 世界に開かれた交流と共生の島

ウチナーネットワーク

10月30日を「世界のウチナーンチュの日」と制定したことを踏まえ、国内外へ沖縄に関する情報を発信し、次世代のネットワークの担い手育成等、ウチナーネットワークの継承、発展に取り組みます。



2017 ウチナージュニアスタディーの様子

10月31日(火) 琉球新報 社会面 掲載



沖縄の心未来へ

世界のウチナーンチュの日 海外も一体 記念日祝う

世界のウチナーンチュの日を祝うイベントが、10月30日(日)に、琉球新報本社で開かれた。当日は、国内外から集まったウチナーンチュの皆さんが、沖縄の文化や歴史について語り合ったり、歌を歌ったり、踊りを踊ったりして、交流を深めた。また、ウチナーンチュの未来について話し合い、次世代の担い手育成に取り組むことが決まった。

当日は、琉球新報本社で開かれた。当日は、国内外から集まったウチナーンチュの皆さんが、沖縄の文化や歴史について語り合ったり、歌を歌ったり、踊りを踊ったりして、交流を深めた。また、ウチナーンチュの未来について話し合い、次世代の担い手育成に取り組むことが決まった。

当日は、琉球新報本社で開かれた。当日は、国内外から集まったウチナーンチュの皆さんが、沖縄の文化や歴史について語り合ったり、歌を歌ったり、踊りを踊ったりして、交流を深めた。また、ウチナーンチュの未来について話し合い、次世代の担い手育成に取り組むことが決まった。



ウチナージュニアスタディー

ウチナージュニアスタディー2017～万人エイサーイベント～

視聴回数 30 回

1 0 共有

那覇市ぶんかテンプス館
2018/01/10 に公開

ウチナージュニアスタディー2017
2017年8月5日の万人エイサーのイベントにてエイサー演奏

● YouTube

今年から事業の企画にYouTubeを導入。

ツアー実施中の風景を動画撮影し、Youtubeにアップすることで、参加者の保護者や関係者が閲覧することができた。

また、いろんな方たちが閲覧できることにより、事業のことを世界に広く発信でき、さらに多くの人に知ってもらうことができることがYouTubeの強みである。

これから再生回数・いいね数は増えていくであろうと考える。

チャンネル

「那覇市ぶんかテンプス館」



那覇市ぶんかテンプス館
チャンネル登録者数 6 人

チャンネル登録

検索方法

「ウチナージュニアスタディー」で検索するとヒットする。

インターネットを利用した次世代ネットワークの構築



●facebook

Facebookを利用し、事業実施前から参加者とコンタクトを取ることができた。

また事業の実施後もツアーの思い出の写真が参加者やボランティアから投稿され、参加者全員が思い出を共有することができた。

今年度の参加者が33名に対し、現在はスタッフ・ボランティア・過去参加者を含め、47名が参加しているグループとなった。

ツアーの思い出だけでなく、新聞掲載や世界のウチナーンチュの日のPR写真・実施時の写真など投稿され、また参加者が作成した展示物がJICAフェスにて展示された写真など投稿されている。

これからも随時、本事業関係の情報が投稿されていく。

●LINE

さらにLINEでもグループを立ち上げ、県内参加者と海外参加者は日々連絡を取り合い、県人会活動や誕生日お祝いメッセージなどが投稿される。

●制作意図

既存のロゴマークをベースにデザインをさらにブラッシュアップさせ、見やすく、より鮮やかにロゴをマイナーチェンジしました。

「Uchina Junior Study」を通じて海外移住者子弟の青少年と県内の中高生が沖縄への理解を深める。協調性、躍動感、ネットワークと魂(マブイ)、楽しさをイメージし、ロゴタイプを効果的+印象良く、楽しくレイアウトしました。また、世界のウチナーネットワークの継承を大きなテーマの一つととらえ、未来へ紡いでいく尊敬と信頼を築くイメージでグラフィカルに表現した。

●カラーリング構成

ブルーで友好のチムグクルを
グリーンで協調性を
レッドでウチナーンチュの情熱を
イエローであくなき探究心を
スカイブルーで沖縄の美しい自然を
それぞれ表現しています。



●ロゴマーク(ボックスタイプ)

Tシャツのバックに使用。
今年からマイナーチェンジをしたことにより、
参加者から「かわいくて毎日着たい!」、
「もう1枚欲しい!」とお褒めの言葉を頂いた。

またジュニアスタディーツアー・
ウチナージュニアスタディの卒業生ボランティア
「さらにキャラクターデザインが強くなっていて、
とてもかわいい」と好評だった。



●ロゴマーク(横タイプ)

ウェルカムボード、ネームフォルダに使用。



●Tシャツデザイン

ウチナージュニアスタディーオリジナルTシャツを参加者・県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダーの全員に配布し、県庁表敬・さよならパーティーの際に着用。全体の一体感を醸成し、規律ある団体行動を促した。

また、8/8のアフターで寄せ書きをみんなで書き合うことにより思い出の品として持ち帰った。配布するTシャツは、参加者用(白)と県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダー用(黒)の2種類作成。



●横断幕

サイズ250cm×45cm

事業名の『ウチナージュニアスタディー』の文字の下には、10月30日に開催される『世界のウチナーンチュの日』を記載しPR行なった。表敬訪問や首里城・美ら海水族館などの見学施設での全体写真撮影に使用。

2017 ウチナージュニアスタディー
Uchina Junior Study 2017
World Uchinanchu Day 10.30

●ウェルカムボード

空港で海外参加者のお迎えの際に使用。

- 沖縄方言
- 日本語
- 英語
- スペイン語
- ポルトガル語
- 韓国語
- タガログ語

沖縄方言と6カ国で「ようこそ！」という意味。



制作物

●ネームフォルダ

名前(ローマ字含む)・出身国・年齢・血液型・性別・緊急連絡先を記載

- 白：日本語圏
- 赤：英語圏
- 青：スペイン語圏
- 緑：ポルトガル語圏
- 橙：韓国語
- 黒：スタッフ・ボランティア



●フェイスシール

最終日の修了式・さよならパーティー・一万人エイサープレイメントの際、県内参加者・県内青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には日の丸のフェイスシールを貼り、海外参加者・海外青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には自国のフェイスシールを貼り、「私たちは皆ウチナンチュ」と表現をした。



改善点

●オリエンテーション

今回初めて、第1回目の事前学習に県内参加者の保護者とホストファミリーも参加してもらい、事業の説明を行なったが、説明会后にホストファミリーから「県内参加者の保護者を中心に説明しているように聞こえる」との指摘があったため、次年度のオリエンテーションは保護者・ホストファミリーに分かりやすく説明を行なう。

●サザンプラザ海邦

1日目・4日目・5日目・6日目に宿泊したサザンプラザ海邦はツイン部屋が多く、参加者が部屋の中でコミュニケーションが十分にとれなかったため、事業としてはツイン部屋は向いていなかった。
なるべく多くのコミュニケーションを図るためには4~5名ほど入る大部屋のホテルを宿泊する。

●エイサー

1日目は参加者の緊張やプログラムがタイトのため、次年度はプログラムから1日目のエイサーは除外する。

●キャンプファイヤー

ゲームの時間が長すぎて予定よりオーバーしてキャンプファイヤーを行なったので、次年度はゲームの数を減らす方向。またキャンプファイヤーのダンスの時間も長かったので参加者の疲れが見えたので、次年度のダンスの時間を短縮。

●空手会館

今回初めてプログラムに取り入れ、実施したが展示施設と道場施設と鍛練室のみ見学。時間配分が上手く取れず、空手教室での空手体験が出来なかった。次年度はプログラムに取り入れたい。

●facebookの活用

昨年からfacebookの未登録の参加者が多くみられる。次世代ネットワーク構築のため、どうしてもfacebookなどのSNSを活用した繋がりを作りたい。
次年度はfacebook以外のSNSで使用か、またはfacebookの登録を義務化にすることを考える。

●ホームステイ期間

海外参加者の来沖日をプログラム開始2日前としたことで、プログラム期間中に体調不良を訴える参加者が例年以上に多かった。次年度以降はプログラム前のホームステイ期間を延ばし、参加者が体調を整えてプログラムに参加できるようにする。

受入実績

(1) これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○国別内訳

() 内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
ボリビア	4 (1)	2	2 (1)	2	2	4 (1)	2 (1)	1	1	1 (1)	★ 3	1	2	3	2	3	2	37 (5)
ブラジル	8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3	3	2	3	3	2	56 (12)
うちカンボグランデ	2 (1)	1	1 (1)	1	1	2	1	1	1	1		1	1 (1)	1	1	1	1	18 (3)
アルゼンチン	4 (1)	2 (1)	2	2	2	3	2	2	2	2	3 (1)	1	3	2	2	2	2	38 (6)
ペルー	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1	2 (1)	2	3	1	2	1 (1)	2	3	1	35 (9)
ベネズエラ	1 (1)																	1 (1)
メキシコ	2 (1)					1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	12 (1)
キューバ		1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)								7 (7)
フランス	1 (1)																	1 (1)
イギリス	1 (1)				1 (1)	2					1							5 (2)
ドイツ	1 (1)						1			1 (1)		1		1				5 (3)
アメリカ	17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2	2	3 (1)	4	4	98 (21)
うちハワイ		2	2 (1)	1		1		1	1			1						9 (1)
うちグアム	1		1 (1)															2 (1)
カナダ	4 (2)	1 (1)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1		2	1 (1)	22 (4)
フィリピン	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1	1	1	1										1	12 (3)
シンガポール		1 (1)																1 (1)
マレーシア						1		1			1			1	1	1		6
韓国														1	1	1	1	4
ニューカレドニア								1	1	1	1		1					5
計	50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	20 (1)	15 (1)	345 (77)

○世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
1世				1	2	1		1			1		1			1		8
2世	26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	5	3	5	4	112
3世	21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	7	4	8	7	141
4世	3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	3	8	6	4	82
5世						1				1								2
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	345

○海外参加者の男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
男子	30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	6	7	7	3	142
女子	20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	9	8	13	12	203
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	345

(2) これまでの県内・県外参加者内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○学生別内訳

() 内は県外参加者

※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
小学生	9																	9
中学生	24	13 (3)	7 (1)	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	5	4	4	2	110 (4)
高校生	17	11 (1)	18 (2)	15	15	22	13	11	13	15	17	12 (1)	12	11	12 (1)	18 (2)	14	246 (7)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	365 (11)

○県内・県外参加者の男女別内訳

() 内は県外参加者

※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
男子	15	6	4 (1)	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	3	4	4	3	77 (1)
女子	35	18 (4)	21 (2)	16	14	26	14	12	14	18	20	12 (1)	12	13	12 (1)	18 (2)	13	288 (10)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	365 (11)

(3) これまでの参加者合計 (海外、県内・県外)

○参加者合計

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
海外	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	345
県内・国内	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	16	365
計	100	44	44	37	36	67	34	30	36	42	47	28	30	31	31	42	31	710

